

清瀬市
市民活動未来ビジョン
(素案)

令和8年3月

目次

第1章 清瀬市市民活動未来ビジョン策定にあたって	
1. 策定の背景と目的	1
2. 清瀬市市民活動未来ビジョン記載の用語	2
第2章 市民活動の現状と課題	
1. これまでの経緯	3
2. 市民活動の現状	5
3. 清瀬市の市民活動が抱える課題	5
(1) 活動を進めるうえでの課題	5
(2) 市民活動へ参加できない市民の課題	7
(3) 活動の場の課題	8
第3章 市民活動の将来像	
1. 市民活動センターを利用する市民活動団体の将来像	9
(1) 市民活動とは	9
(2) 市民活動の未来ビジョン	10
2. 市民活動の将来像を実現するための市の支援	11
第4章 今後の市民活動センターの運営に向けて	
1. 市民活動センター運営の現状と課題	11
(1) 市民活動センター運営の現状	11
(2) 市民活動センター運営の課題	11
2. 市民活動センターが目指していく将来像	13
(1) 市民活動センターの機能	13
(2) 市民活動センターによる本ビジョンの実行と検証体制の必要性	13
(3) 誰もが訪れる市民活動センターを目指して	13
コラム プラットフォームについて	14
第5章 清瀬市市民活動未来ビジョンの実現に向けて	
1. これから市民活動・市民活動センターに向けて	15
資料編	
清瀬市市民活動未来ビジョン検討会について	17
清瀬市市民活動未来ビジョン策定のための登録団体アンケート集計結果	18
ボランティアを含む市民活動に関するアンケート集計結果	39

第1章 清瀬市市民活動未来ビジョン策定にあたって

1. 策定の背景と目的

清瀬市では、平成14年に市民活動センターを設立し、市民活動を支援してきました。しかしながら、設立当初から約20年が経過する中で、社会環境は大きく変化し、地域社会にもその影響を及ぼしているのが現状です。主な課題として、少子高齢化の進展による地域の担い手不足や、インターネットやスマートフォン、SNSなどの普及によるテクノロジーの急速な進化、さらには気候変動の深刻化などが挙げられます。これらの変化は地域課題をより複雑かつ多様化させ、市民生活に大きな影響を与えています。

さらに、市の財政には一定の制約があり、活用できる財源や公共施設にも限りがある状況です。そのような中でも、市民が地域に誇りを持ち、日常生活を安心して送ることができる環境を整備し、身近な地域課題の解決を図ることが求められています。しかし、市民活動を行うための環境作りや新たな人材の発掘の機会が減少してきている問題も存在し、市民活動を取り巻く環境を改善する必要がある状況です。

これらの課題に対応するためには、設立当初から現在までの社会や技術の変化を考慮し、現代のニーズに即した市民活動センターの役割を見直すことが重要です。

このような背景を踏まえ、市民活動の未来像を描く「清瀬市市民活動未来ビジョン」（以下、「本ビジョン」という。）を策定しました。

本ビジョンは、市民活動センターの役割を再考し、幅広い世代の市民が活動に参加しやすい環境を整備することを取り上げました。また、市民に市民活動をもっと身近に感じてもらい、地域課題の解決につながる仕組みを構築することを目的としています。

本ビジョンの策定にあたり、「清瀬市市民活動未来ビジョン検討会」（以下、「本検討会」という。）を設置し、会議を中心に議論を進め、市民向けに「ボランティアを含む市民活動に関するアンケート」を実施するとともに、清瀬ボランティア・市民活動センターの登録団体向けにもアンケート調査を行い、現状や課題の把握に努めました。

さらに、市民活動センターの登録団体向けに中間報告会を開催し、これまでの検討状況や進捗を共有するとともに意見交換を実施しました。加えて、本ビジョン策定前にはパブリックコメントを実施し、市民の皆様から広く意見を募集することで、多様な視点を反映した内容としています。

本ビジョンでは、市民活動を支える環境整備や地域課題の解決策を検討しました。また、新たな人材や次世代の担い手を育てる仕組みを構築し、幅広い世代が市民活動に参加しやすい仕組みを作ることを取り上げました。さらに、

本ビジョンは今後の市民活動の進展や、関係法令や支援制度の変更に応じて必要に応じて見直しを行うこととします。

2. 清瀬市市民活動未来ビジョン記載の用語

○市民活動センターとは

清瀬市が平成14年度から立ち上げ、現在はその運営を清瀬市社会福祉協議会に委託しているきよせボランティア・市民活動センターを指します。

○きよせボランティア・市民活動センター登録団体アンケート

本ビジョンでは「登録団体アンケート」と記載しております。令和7年8月にきよせボランティア・市民活動センターの登録している全69団体を対象に行いました。その内、33団体より回答があり、その結果を本ビジョンに掲載しております。

○（市民向け）ボランティアを含む市民活動に関するアンケート

本ビジョンでは「市民向けアンケート」と記載しております。令和7年8月に実施、公共施設や市民協働課の窓口、市に所属している団体等で実施し、66件の回答いただき、その結果を本ビジョンに掲載しております。

第2章 市民活動の現状と課題

1.これまでの経緯

清瀬市民活動センターのあゆみ			
年度	名称 事務局運営者	市の動き等 (※国・社会の動向)	
平成13年度 (2001)	未設置	1月市民活動センター開館 清瀬市民活動センターの会が運営を受託	
平成14年度 (2002)	検討会		
平成15年度 (2003)	清瀬 市民活動 センター の会		
平成16年度 (2004)			
平成17年度 (2005)			
平成18年度 (2006)			
平成19年度 (2007)			
平成20年度 (2008)			
平成21年度 (2009)		3月NPO法人清瀬市民活動の会が運営を受託	
平成22年度 (2010)		コミュニティプラザひまわり開館。清瀬市社会福祉協議会が入居 ※3月11日東日本大震災	
平成23年度 (2011)	NPO法人 市民活動 の会		
平成24年度 (2012)			
平成25年度 (2013)			
平成26年度 (2014)			
平成27年度 (2015)			
平成28年度 (2016)			
平成29年度 (2017)		3月31日NPO法人市民活動の会解散	
平成30年度 (2018)		4月1日から清瀬市社会福祉協議会が運営を受託	
令和元年度 (2019)	清瀬市 社会福祉 協議会	※新型コロナウイルス感染拡大 清瀬市市制施行50周年 清瀬市役所新庁舎竣工	
令和2年度 (2020)			
令和3年度 (2021)			
令和4年度 (2022)			
令和5年度 (2023)		清瀬市がSDGs未来都市に選定	
令和6年度 (2024)		清瀬市市民活動未来ビジョン検討会立ち上げ	
令和7年度 (2025)			

平成13年3月に公募により清瀬市市民活動支援センター開設準備委員会が立ち上がり、市民活動センター設立に向けて動き出しました。当時の市民活動に対する期待としては、地域生活に関する全てのことを行政に頼るのではなく、豊かな生活環境を構築するために、地域社会の課題に関心を持ち、市民自らの解決に向けた行動により、市民活動が活発になることで、「市民による市民のためのまちづくり」に近づくことができるのではないかということでした。

そのなかで、清瀬市市民活動支援センター開設準備委員会では、「市民活動センターは、市民活動を行っている、または行おうとしている個人や団体を市民自らが支援し、市民活動に対する理解を広げ、市民の自治的活動を発展させることによって、住みよい・活力のある清瀬市のまちづくりに貢献すること」を基本理念として掲げました。また、市民活動センターの活動対象を基本理念にかなう個人および団体としました。

市民活動センターは、市民活動に取り組む個人や団体を支援する中間支援

組織として位置付けられ、市民活動団体のN P O 法人格の取得をはじめ、市民活動団体や個人の取り組みを支援し、その活動が円滑かつ効果的に行えるようサポートする役割を担うことで、地域課題の解決や市民活動の活性化を促進することを目的としています。

清瀬市民活動センターの会が平成 14 年度から平成 20 年度まで、N P O 法人清瀬市民活動の会が平成 21 年度から平成 29 年度まで、公設民営で市民活動センターの運営を担っていました。そこでは運営委員会を設立し、委員は市民活動団体のメンバーで構成され、会だけで運営するのではなく、市民活動団体と協働しながら運営を行ってきました。

平成 30 年には、市民活動センターが持つ自主的な活動の側面的支援機能と、ボランティアセンターがもつコーディネート機能など、それぞれの特徴を活かして、市民に分かりやすい、地域福祉活動に取り組めるセンター機能の充実を図るため、ボランティアセンターを運営する清瀬市社会福祉協議会に市民活動センターの運営を委託しました。

2. 市民活動の現状

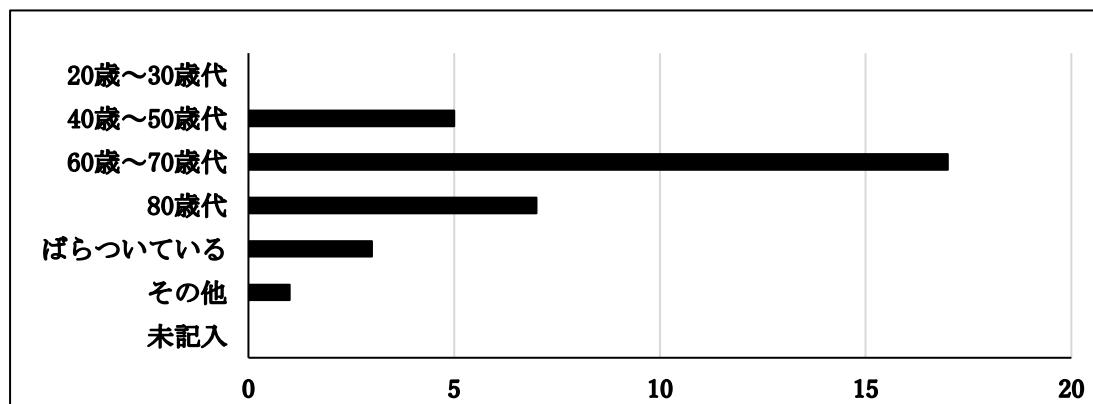
現在、市民活動センターでは、ボランティア活動と市民活動団体の双方を支援する形態で運営しています。この運営形態は、それぞれの活動の強みを活かし、市民が取り組む活動の幅を広げることを目指しています。

市民活動団体の状況について、令和7年4月時点では当センターに69団体が登録されており、実施した登録団体アンケートにはそのうち33団体が回答しました。その結果から、団体の活動を支える主な年齢層は60歳代から70歳代が多いことが分かり、団体の高齢化が進んでいる傾向が見られます。

一方で、市内の各地域では人と人とのつながりや助け合いが少しづつ育まれ、「支え合いの文化」が活性化・定着してきています。市民自らが身近な課題を見つけ、解決に向けて行動する「市民の力」が広がることで、地域課題への意識も高まっています。さらに、市民活動センターがボランティアセンターと統合することにより、登録団体が増加し、支え合いの輪が広がっています。これらの取り組みにより、行政だけでは対応が難しい分野を市民が補完する形で、暮らしの安心や豊かさにつながっています。

こうした市民の自主的な活動は、地域課題を協働で解決していくための土台を築き、まち全体の「協働の力」を育てる重要な役割を果たしています。

◆団体の活動を担っているのは、主にどのような年齢層が中心ですか。



※登録団体アンケートより抜粋

3. 清瀬市の市民活動が抱える課題

(1) 活動を進めるうえでの課題

登録団体へのアンケート結果によると、「活動の上で課題と感じていること」として、「メンバーの高齢化」を挙げた団体が最も多いという結果となりました。これに続き、「必要な場所・備品保管場所の確保」、「メンバーの減少」、「必要な予算の確保」といった課題も挙げられています。

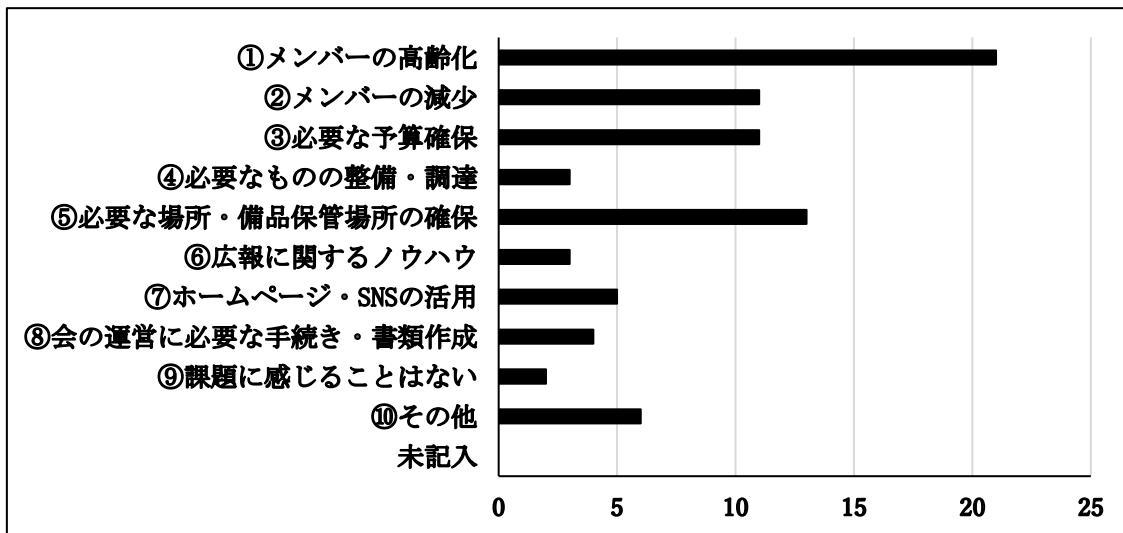
特に、メンバーの高齢化や減少の意味するところは、「活動をやめる人材よ

り新たに参加する人材が少ない」「若年、中年層が主体となる新規団体が生まれていない」ということであり、市民活動団体の活動内容を幅広い世代に広くPRし、市民の認知度を高めることが重要です。また、「自分も参加してみたい」と感じる市民を増やすことで、市民活動の参加を促進し、さらなる活性化を目指す必要があります。そのためには、魅力的な活動を企画し、参加者が意義や楽しさを感じる運営手腕を持ち、魅力的な発信を行える人材を発掘し、育成していく機能や実際に参加を可能とすることが求められています。こうした取り組みを通じて、世代を超えた市民活動の充実と継続的な発展を後押しすることが求められます。

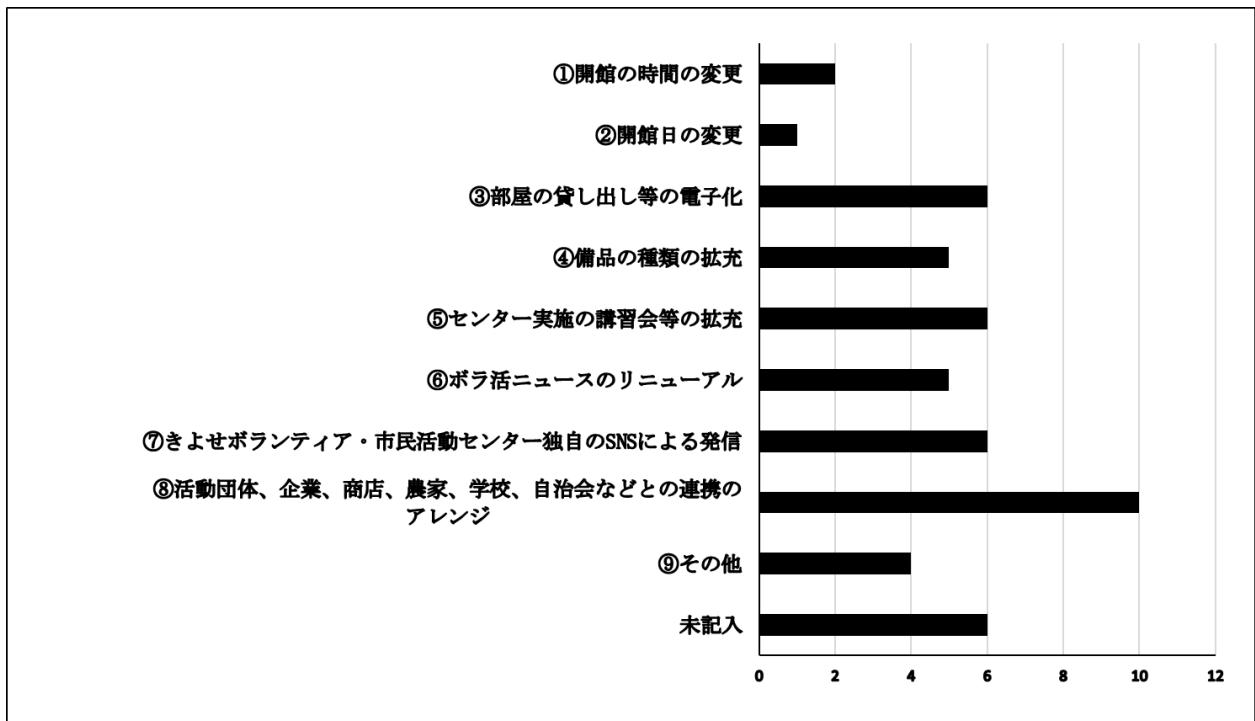
さらに、同アンケートにおける「きよせボランティア・市民活動センターの運営に関して、よりよく運営するために期待することはありませんか」という問いでは、「活動団体、企業、商店、農家、学校、自治会などとの連携のアレンジ」が最も多く挙げられました。この結果は、地域課題が多様化する中で、市民活動団体の担い手不足や連携の必要性が深刻な課題となっていることを示唆しています。

今後は、これらの課題に対応するために、他団体や行政との連携を効果的かつ円滑に構築・促進する方策を具体的に検討することが重要です。市民が楽しく学びながら、市民活動に参加し、さらには自発的な連携を行えるよう支援することが求められます。

◇活動の上で課題と感じていることはありますか。



◇きよせボランティア・市民活動センターの運営に関して、よりよく運営するため期待することありますか。



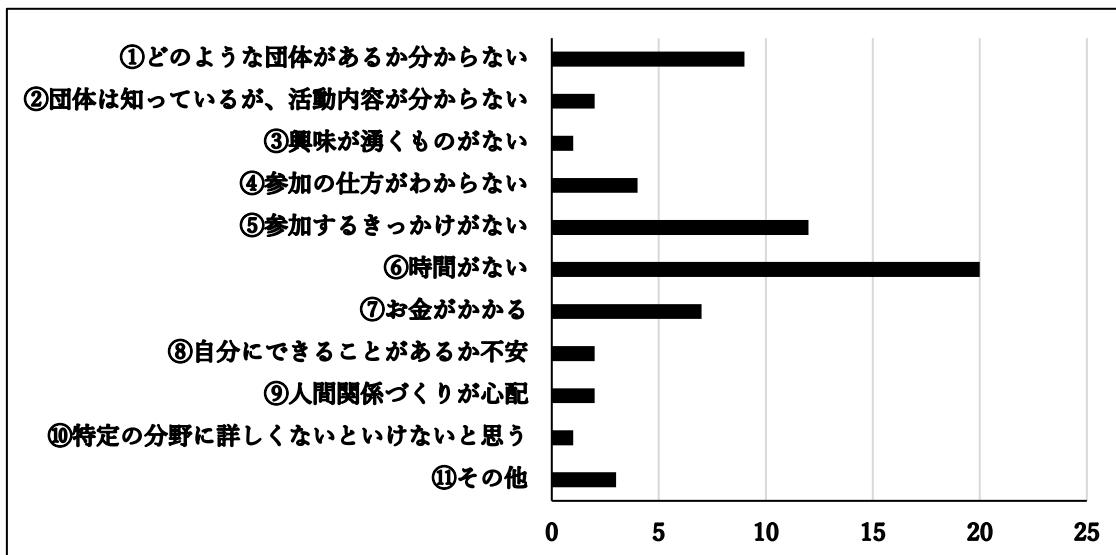
※登録団体アンケートより抜粋

(2) 市民活動へ参加できない市民の課題

市民向けアンケートの結果によると、市民が市民活動に参加しない理由として最も多かった回答は「時間がない」でした。これに続き、「参加するきっかけがない」や「どのような団体があるか分からない」という回答も多く見られました。この結果から、現役世代を中心とする市民の多くが、仕事や育児などで忙しく、活動に参加する余裕がない現状が浮き彫りになっています。

この問題を解決するためには、多忙な中でも自分の住む清瀬というまちの問題を自分事としてとらえ、自ら参加してよりよくしていこうと考える市民を増やすことが必要です。すなわち、都市格の高い清瀬を目指し、学校教育から生涯学習まで継続的な取り組みを目指すことだと考えます。これに加えて市民活動団体側が、現役世代を含む多世代に対し、積極的にアプローチを行い、仕事や育児などで多忙な暮らしの中でも「時間を使って参加したい」と思ってもらえるような魅力的な活動内容を提案する工夫が求められます。また、市民活動への参加の敷居を低くし、市民が気軽に活動に触れられるきっかけを提供することも重要です。

◇市民活動に参加しない理由をお聞かせください。



※市民向けアンケートより抜粋

(3) 活動の場の課題

他市の市民活動センターの取り組み状況と比較した結果に基づき、いくつかの課題が明確になりました。

まず多世代が利用する施設の実現です。他市の事例では、市民活動センター無料開放スペースを設けることによって、学生を中心に多世代が利用する施設としての役割を果たしています。このような場は、市民活動の担い手となりうる若い世代に、市民活動を知ってもらい、交流のきっかけを提供する重要な足がかりとなります。

現状の運営体制では17時閉館となっており、学生や働き世代が利用したい時間帯の対応が不足しています。他市のように22時まで開放するなどの運営体制や主体の見直しにより、幅広い層が施設を利用できる環境を整えることが課題です。

また、市民向けアンケートの「ボランティアを含む市民活動に対して、関心をさらに高めるには何が必要ですか（自由記述）」の質問では「情報が必要だと思う。ボランティアという言葉そのものがハードルが高く感じてしまう」との意見があり、市民活動やボランティア活動が身近なものでなく、特別なものと感じている方がいる事が分かりました。この認識を払拭するため、情報発信や体験会のような市民に「活動の身近さ」を感じてもらう工夫が求められます。

第3章 市民活動の将来像

1. 市民活動センターを利用する市民活動団体の将来像

(1) 市民活動とは

市民活動を行っている方が自分の住んでいる地域に誇りを持ち、充実した日常生活を送ることができる環境を整備するとともに、地域の身近な課題の解決を図ることは重要な取り組みです。

そのため、市民活動センターを利用し市民活動をする場合においては、地域貢献活動や地域課題の解決に向けた活動に個人または団体、主体的に取り組んでいる市民活動を支援していくことが望ましいと考え、本ビジョンでは「市民活動」を以下のように捉えることとします。



(2) 市民活動の未来ビジョン

登録団体アンケートから明らかになった課題に対して市民活動団体は、次のような機能や能力を養成していくべきです。

○継続的に担い手を確保する意思と力

継続的に市民活動を運営していくために、担い手になりうる人材が出てくるのを待つだけではなく、自分たちで担い手の育成や人材発掘する意思が必要です。

○安定した財源と財源を確保する機能

財源確保は団体の安定的な運営を支えるために欠かせない要素です。市民活動団体が安定して活動を展開し、持続可能な運営を行うために、助成金やスポンサー、寄付、参加費、クラウドファンディングなど、多様な財源確保の手段を効果的に活用する必要があります。

○専門知識やノウハウを確保、または学ぶ力

身近な講座などだけでなく、今持っている専門知識やノウハウが更に深まるように、幅広い範囲でアンテナを伸ばし自らが探し学びに行く姿勢が求められます。

○活動を維持するための情報発信力

現役世代の参加を促進するためには、SNSなどの身近なツールを活用し、積極的に情報発信を行うことが重要です。また、活動PRの方法については継続的に見直しを図り、時代のニーズやトレンドに沿った発信を行い、その効果を高めていく必要があります。

○他団体と連携する意思と力

複雑化・多様化する地域課題への対応策として、異なる分野の市民活動団体間での情報交換や連携を促し、協働による地域貢献活動の相乗効果を図る仕組みを構築することが必要です。その中で、各市民活動団体や地域組織が連携しながら課題解決を目指した活動を推進する役割を果たすことが求められます。

その結果、市民活動に求めるべき将来像として次のように定義しました。

「市民活動に参加する人が楽しく、意義を感じるものであり、結果として清瀬が安全、安心で、市民が誇りを持てる活力あるまちになるような価値を創造している」

2. 市民活動の将来像を実現するための市の支援

本ビジョンでは、人、もの、金、情報、時間といったリソース不足を補い、未来ビジョンを実現するための鍵は市民（人材）であり、市民活動の理想像を実現するのも市民であり、市はこれを実現しようとする市民の学びと力の発揮を支援するべき存在です。

他市では、市民活動センターやボランティアセンターにプラットフォーム機能を設けて取り組みが進められています。当市でもプラットフォーム機能の保有を検討すべき時期にあります。尚、詳細な内容については「コラム プラットフォームについて」に記載しています。

第4章 今後の市民活動センターの運営に向けて

1. 市民活動センター運営の現状と課題

（1）市民活動センター運営の現状

現在、市民活動センターは、土曜日も9時から17時まで開館していますが、現役世代が仕事をしている時間帯を中心に開館しているため、現役世代が利用しづらい状況にあります。どのような時間帯で開館することが幅広い世代にとって利用しやすく、運営側が対応可能であるかなどを検討していく必要があります。

他自治体の市民活動センターの開館状況のなかには、夜間や日曜日も開館し、現役世代の市民や市民活動団体のニーズに応えている事例があります。この事例では、市民活動センター内の市民活動団体の活動スペースの近くに学習室などを併設し、多目的化を図り、一定の来所者数を確保することで開館日時を幅広く設定することができます。また、夜間や日曜日も開館することによる人件費等の費用面の増加に対応するため、17時以降の窓口にシルバー人材センターを活用するなどの工夫も行っています。

（2）市民活動センター運営の課題

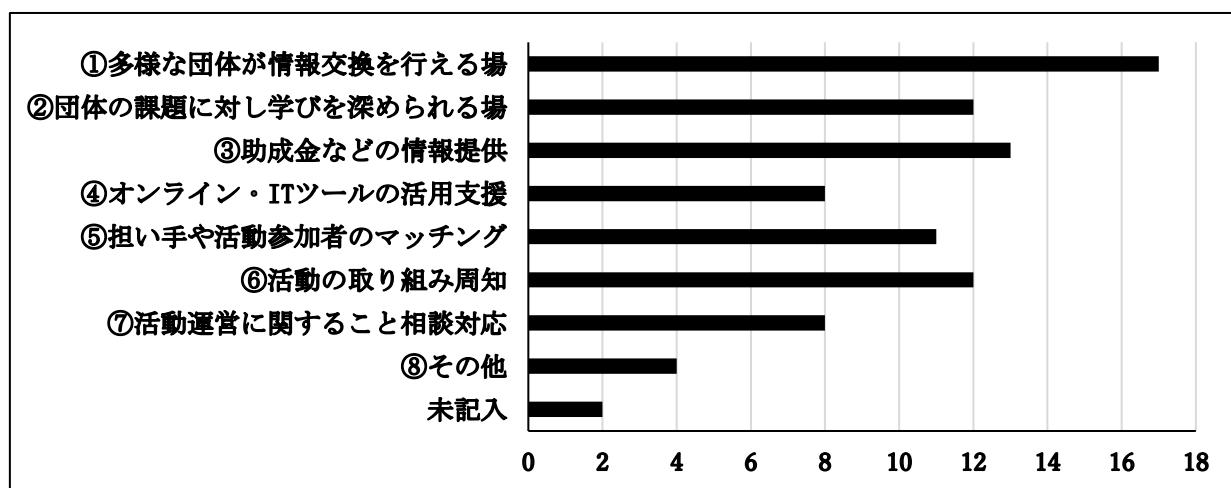
市民活動センターの運営には、地域課題の変化に対応しながら、市民活動団体やボランティアへの効果的な支援を行う体制づくりが求められています。市民活動の中間支援組織として、地域活動の活性化を図り、多様な主体の柔軟な参加や協働を促進する仕組みを整えることが必要です。

登録団体アンケートの「きよせボランティア・市民活動センターの取り組みとして、さらに期待したいことはありますか」の結果では、センターに対する期待として最も多かったのは「多様な団体が情報交換できる場」の提供でした。また、「助成金等の情報提供」「課題解決のための学びの場」「活動周知の場」というニーズも挙げられており、団体間の交流、情報提供、学習支援、活動の

周知を市民活動センターが担う役割として非常に重要であることが分かりました。

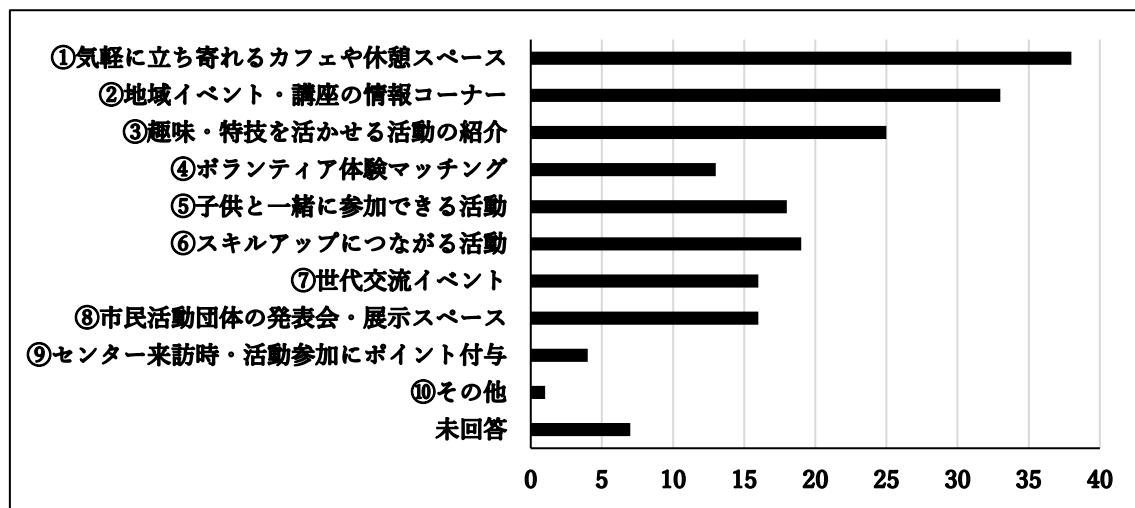
また、市民向けアンケートの「きよせボランティア・市民活動センターにあつたら行きたいと思う機能やサービスはありますか」の結果では「気軽に立ち寄れるカフェや休憩スペース」のニーズが最も高く、現状の市民活動センターには「目的がないと入りづらい」という心理的ハードルを感じている市民が多いことが示されました。この課題を解決するためには、地域の誰もが気軽に訪れ、交流できる環境を整えることが求められます。

◇きよせボランティア・市民活動センターの取り組みとして、さらに期待したいことはありますか。



※登録団体アンケートより抜粋

◇きよせボランティア・市民活動センターにあつたら行きたいと思う機能やサービスはありますか。



※市民向けアンケートより抜粋

2. 市民活動センターが目指していく将来像

(1) 市民活動センターの機能

市民活動団体が今まで以上に市民活動センターを利用しやすい環境を整えていくべきです。そのためにも、今後の市民活動センターの将来像の機能として、以下のような機能が必要です。

機能	内容
広報周知機能	ホームページやソーシャルメディアなど様々な世代が受け取れるツールを通じて、活動情報や提言を発信します。
需給調整機能	市民活動団体と依頼者のニーズを適切につなぎ、団体の力を社会に活かしていきます。
学習支援機能	始める前の基礎や活動をより充実させるための技術、運営に関する研修や知識提供を行います。
資源提供機能	活動拠点や備品・機材を整備し、相談内容に応じた情報提供を行います。
ネットワーキング機能	他団体等との交流を通じて両者の発展を促し、地域へ還元します。
相談機能	団体の活動や運営等の相談を行います。

加えて、市民活動への幅広いアクセスを可能とする環境整備を進めるとともに、DX化を推進することで市民活動団体がデジタル空間等の活用することを促し、物理的な距離を超えた参加と連携を促進する必要があります。

(2) 市民活動センターによる本ビジョンの実行と検証体制の必要性

本ビジョンの策定にあたり、市民活動センターの運営状況や目標達成度を把握する仕組みの構築が必要です。今後、このビジョンが実効的に運用されているかを検証するための体制を整えることが求められます。

(3) 誰もが訪れる市民活動センターを目指して

幅広い世代に市民活動のきっかけを与えるためにも運営時間を見直すことも考えられます。他にも他自治体ではフリースペースを活用し、多世代の方々が幅広い時間で活用している事例があります。そのため、今あるスペースの活用方法を再考し、改めて市民活動センターの施設の在り方について検討していきます。

コラム

プラットフォームについて

(いたばし総合ボランティアセンター運営ビジョン 2030 を引用し、清瀬市版として作成しております)

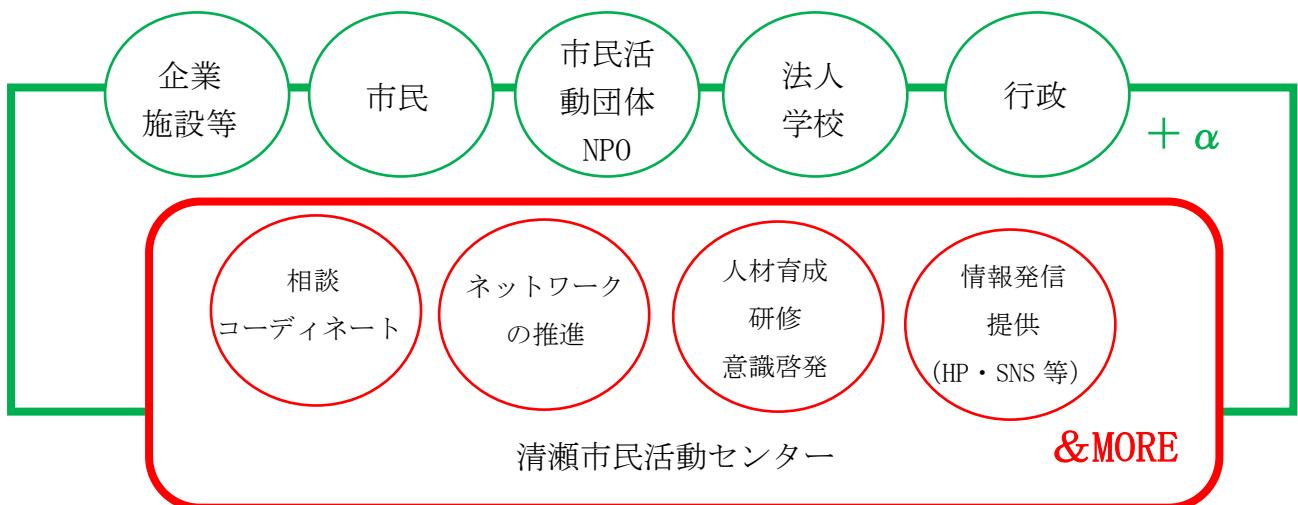
多様な主体が協働し、地域課題に取り組む活動を生み出し、継続・発展させる「しくみ」としてプラットフォーム機能を活用している市民活動センターやボランティアセンターがあります。

このプラットフォームは既に関係性のある団体だけでなく、今まで関係性のなかった団体も相乗りし、各団体がお互いに所有する資産（人・もの・かね・情報等）を出し合い、協力することで、多様な活動資源が絶えず生み出される環境を整備できます。そのためには、多方面に情報発信・共有し、プラットフォームを取り巻く地域課題に対し、各団体が協力依頼や活動検討等を行い、協働して解決対応できるような体制を整えることが重要になります。

（プラットフォームイメージ）

プラットフォーム

多様な団体等が主体的に協働し、多様な情報と人材が集結して新たな活動を創造するしくみ



清瀬市にある小学校区の地域コミュニティである「円卓会議」も活用し、多様な団体と連携を図るために、このプラットフォーム機能が将来的に実施運用できるか財政面や人員面、他自治体の取り組み状況を踏まえて、研究していくべきです。

第5章 清瀬市市民活動未来ビジョンの実現に向けて

1. これからの中の市民活動・市民活動センターに向けて

本ビジョンは、活動団体、市民、行政が連携し、これまでの実績を礎にしながら、次の未来に歩みを進めて行くため、地域社会のさらなる発展を目指す指針として策定しました。

市民活動の力を一層引き出すために、市民活動団体や市民だけでなく、まだ活動に参加していない方やこれから関わりたいと考える方にも行動のきっかけを提供できる仕組みを構築し、誰もが気軽に参加できる環境を整備します。

さらに、他市の市民活動センターの運営方法や先進的なプラットフォームを参考にしつつ、既存の市民活動を継続することを支援し、市民活動を通じて地域社会を支える基盤を強固なものとすることで、清瀬市を人と人が支え合う住みやすい街へと発展させることを目指します。

市民一人ひとりが主体的に行動し、それぞれの役割を力強く果たしながら、地域とともに未来を築くことと、清瀬市の市民活動をさらに発展させ、地域課題の解決に取り組むため、本ビジョンに掲載する市民活動の将来像の実現に向けた取り組みの推進を求めます。

資料編

**清瀬市市民活動未来ビジョン検討会について
令和7年**

5月15日 市報にて一般公募委員を募集

7月23日 第1回清瀬市市民活動未来ビジョン検討会

8月 5日 清瀬市市民活動未来ビジョン策定のための登録団体アンケート実施

19日 ボランティアを含む市民活動に関するアンケート実施

9月30日 第2回清瀬市市民活動未来ビジョン検討会

10月15日 清瀬市市民活動未来ビジョン検討会中間報告会開催

11月18日 第3回清瀬市市民活動未来ビジョン検討会

令和8年

1月15日 清瀬市市民活動未来ビジョン（素案）パブリックコメント実施

3月31日 清瀬市市民活動未来ビジョン策定

清瀬市市民活動未来ビジョン策定のための登録団体アンケート集計結果

1 調査方法

- ・令和7年度きよせボランティア・市民活動センター登録している69団体にアンケートを送付。
- ・令和7年8月5日（火）～8月20日（水）までを回答期間とし、期限内に受領したものを対象とした。
- ・回答方法はアンケート用紙を返信用封筒で送付または持参、FAX、専用回答フォームのQRコードから回答のいずれか。

2 回答数

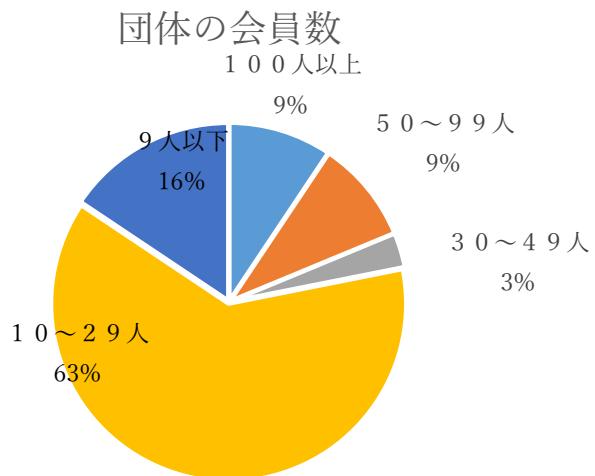
- ・33件（回答率47.82%）

3 調査結果

1. 団体の基本的な内容

問1 団体メンバーの構成を教えてください。

（1）メンバー（会員）数



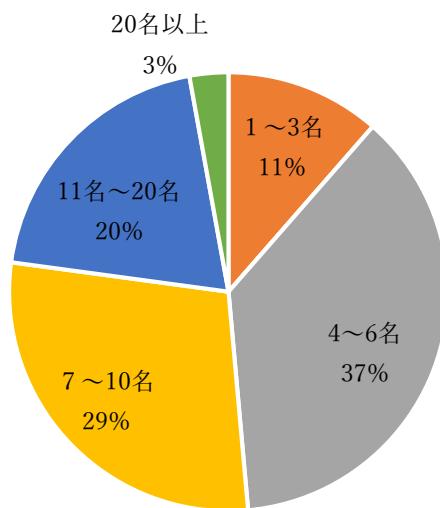
（2）メンバーの年代を多い順で教えてください。

- ・80代が一番多いと回答した団体が5団体
- ・70代が一番多いと回答した団体が17団体
- ・60代が一番多いと回答した団体が7団体

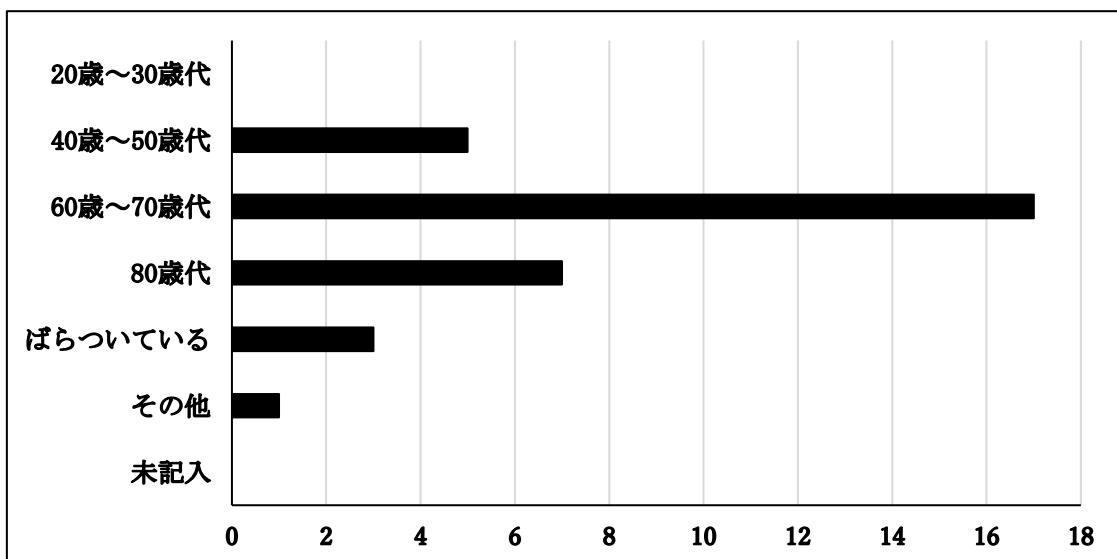
- 50代が一番多いと回答した団体が2団体
- 未回答2団体

(3) そのうち会の主要な活動や運営に関わる人数は何人くらいですか。(いすれかに○)

主要な活動や運営に関わる人数



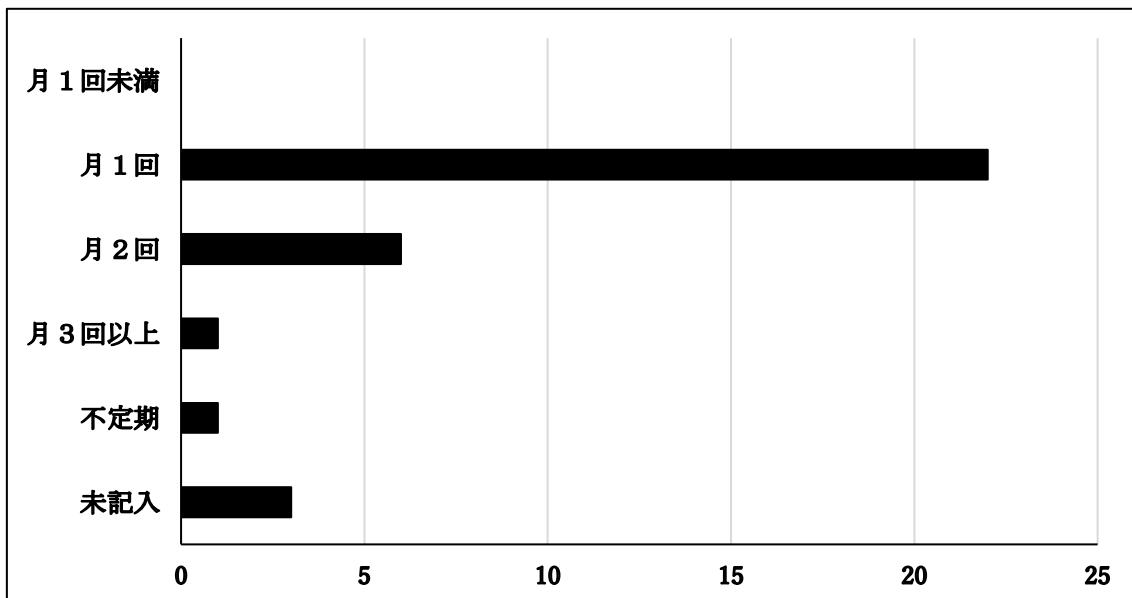
(4) 団体の活動を担っているのは、主にどのような年齢層が中心ですか。(いすれかに○)



その他

- 70代～80歳代

問2 メンバー間の定例会の開催頻度について教えてください。

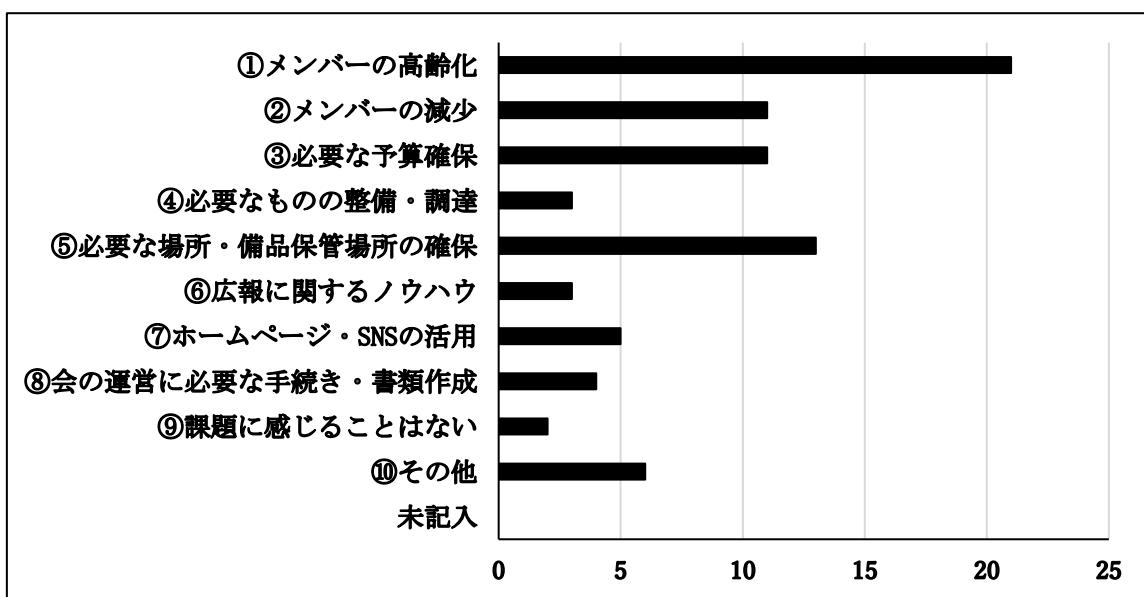


その他の場合

- 8月は夏休みとし、代わりに参加団体グループ代表者による運営委員会を行う。
- 週1回月4回。定例会は活動終了後その都度話し合いをしている。
- 月例山行を年に8~10回くらい

2. 運営に関する現状と課題

問3 活動の上で課題と感じていることはありますか。(いずれかに○ 複数回答可 具体的な課題があればカッコ内にお願いします。)



1. メンバーの高齢化

- いざれ訪れる高齢化による活動の機能しなくなる時の準備が出来ていないのが不安。
- チーム員は70代中心であり、今後の継続活動を図るにはボランティアだけでは難しいこと。
- 高齢化については登山内容、会員のニーズの変化など、それに対応が必要になってきており、運営も難しさを感じている。また、夏季の酷暑（以前は8月のみ野外活動中止していましたが、（7月～9月も検討か）で、野外活動を施設内の活動（勉強会や交流の場）に変えていく必要。

2. メンバーの減少

- ボランティアメンバー不足なので、ご自身の都合で欠席されると人手不足になる。また、大学生は試験期間、実習期間は欠席することが多く、人手不足となる。
- 会の運営を決める幹事メンバーがない。

3. 必要な予算確保

- 事業収入の安定確保（自立）及び寄付金、助成金の確保。
- 予算配分補助金を活用しているが、遊具や教材、イベント費用など、補助金の対象外のものがあり毎年予算確保が必要。
- 利用者、チーム員の利用料負担で会の運営資金を賄う状況であり、近い将来に限界となる。

4. 必要なもの整備・調達

- 機材としてPCが不可欠なので、定期的な買い替え等が必要。

5. 必要な場所・備品保管場所の確保

- 関連資料、印刷用紙、備品等。
- 相談があった時に、ボランティアがペットを一時的に預かるために必要な資材(ケージやトイレ)を保管する場所。
- 子ども食堂の会場が民家を時間でお借りしているので、必要な物品の多くを当日搬入するようになり、備品の保管場所を確保したい。
- 今後の拠点、利用方法等が未確定。
- 駅の近くに調理室がない。場所の抽選に当たるか心配な時がある。駐輪所・駐車場がない所がある。

6. 広報に関するノウハウ。

- 市報毎月1日号及び市ホームページへの記載している。活動場所は空家の利用。令和6年度から市介護予防活動団体育成事業補助金を受給している。

7. ホームページ・SNSの活用

- 高齢化が多く、ITのスキルが乏しい

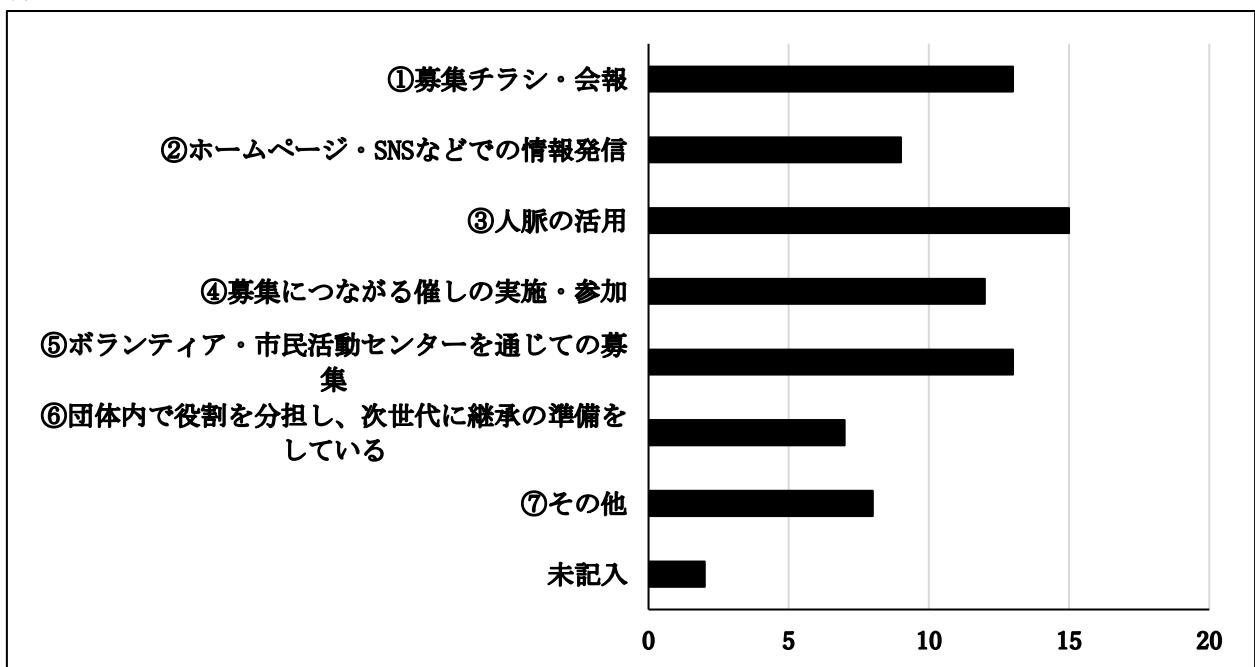
8. 会の運営に必要な手続き・書類作成

- 運営委員会、及び活動に必要な印刷物
- 聞き取りの方が楽（視覚障害があるため）

9. その他

- 従来の活動センターに準じた活動拠点、及び準備等の倉庫、連絡用のメールBOXなど
- 発足して間もないため、基盤作りについて
- 駅の近くでの場所を安定・安心して確保。
- 助成金を3~10万の助け合い運動の成金を申請している。

問4 メンバーの拡大、後継者育成に関して工夫していることはありますか
(いずれかに○ 複数回答可 具体的な工夫があればカッコ内にお願いします。)



1. 募集チラシ・会報

- 市掲示板の活用、学校へポスター等を掲示依頼
- ふまねっと運動については高齢支援課に要望し市報に案内を掲載してもらっているが頻度は少ない。
- 新しい人を活動の中で、発掘している。
- 年2回発行の会報(4月、9月)
- 有償ボランティアの定着

2. ホームページ・SNSなどでの情報発信

- ホームページに最新情報を都度掲載

3. 人脈の活用

- 当会参加団体の協力援助
- 2026年7月に設立15周年コンサートを開催予定
- 他地域での生徒やメンバーの友人が自然と入会する場合がある。

4. 募集につながる催しの実施・参加

- ラジオ体操指導者の育成、NPOラジオ体操連盟の研修会等に参加
- 日本語教室は日本語ボランティアになる資格として、会が行う（市との共催）日本語ボランティア養成講座を受講する必要がある。このことによって毎年新しい日本語ボランティアが誕生し、引いては新しい清瀬国際交流会会員を確保することに繋がっている。会が30年以上活動できているのは、この講座の存在が大きいと思える。

- 無料体験、無料教室の開催

5. ボランティア・市民活動センターを通じて募集

- ボランティア相談会やボラカフェに参加したところ、大学生の参加者が増えた。

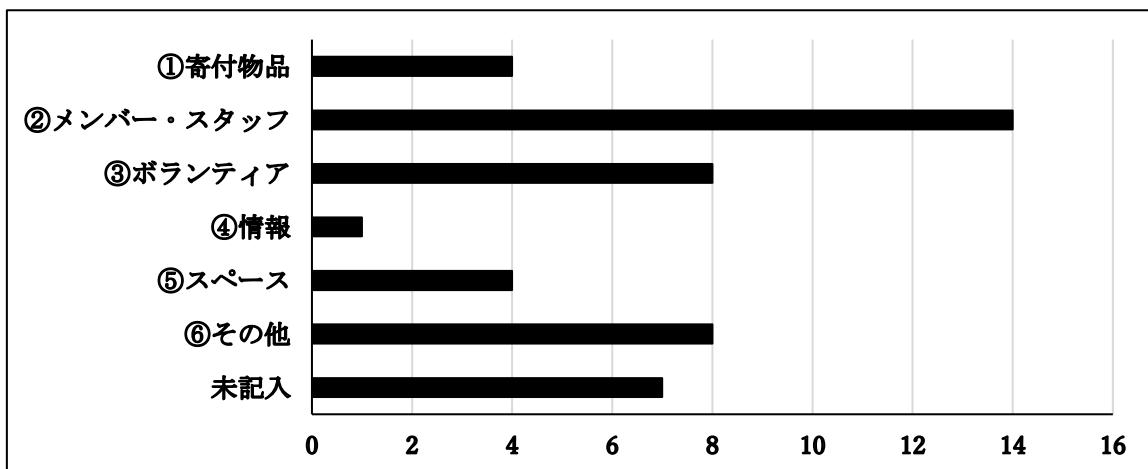
6. 団体内での役割を分担し、次代に継承の準備をしている

- 各々の参加団体で解決すること
- インストラクターの確保

7. その他

- まだメンバー拡大、後継者の育成に取り組んでいない
- メンバーの増減は常にあるものなので気にしていない。増えすぎる方がよくない。
- 会員の拡大は会員の知り合い、友人などに声掛けする程度です。

問5 地域の方から広く募りたいものはありますか。（いずれかに○ 複数回答可 具体的な考えがあればカッコ内にお願いします。）



1. 寄付物品

- お楽しみ会では、子ども達へ子どもが喜ぶ品物(未使用の不用品)、キャラクターグッズの文房具や日用品などをラッピングしてプレゼントして喜ばれている。知人に声掛けて、未使用品や不用品などを集めているので、募集したい。

2. メンバー・スタッフ

- 常時メンバーやスタッフを募集している。
- 声を出すこと、PC を使っての活動をするためのスキルを学ぶことが必要なので、なかなか難しい。過去に講座を受けて参加に至らなかった人が、時間的余裕が出来て参加して下さるとうれしいがその実績はない。
- インストラクター、アシスタントの確保。
- 子ども食堂連絡会では3年前からハロウィン祭りを開催しており、竹丘地域では、お菓子を配るホストハウスを募集しているので、ホストハウスを増やして地域の祭りを盛り上げたい。
- 幹事会など常に参加できるメンバー

3. ボランティア

- 有償ボランティアの定着
- 行き場を失った犬や猫を自宅で一時的に預かる事ができるボランティアが増えてほしい。
- 楽器演奏や手品、バルーンアートなど、地域で特技がある方に子ども食堂に来ていただき、ぜひ披露してほしい。
- きよせ映画サロン開催時の会場設置、椅子の設置、撤去。

4. 情報

※コメント無し

5. スペース

- 活動拠点となる場所、備品倉庫、作業場、連絡用メールBOX

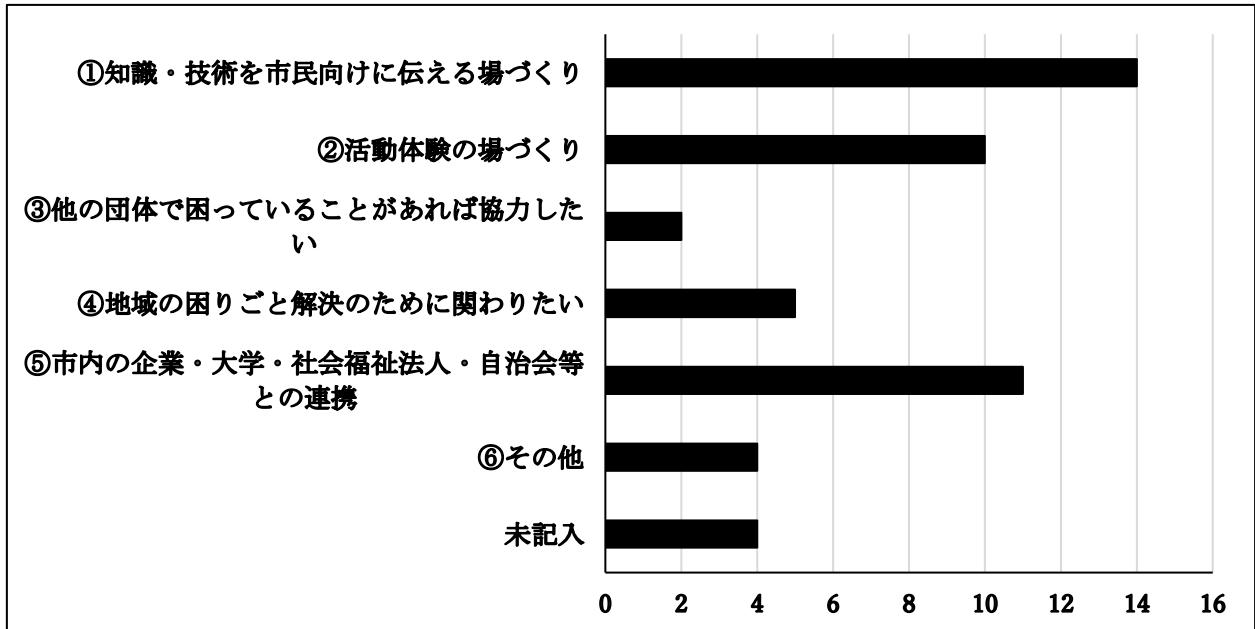
6. その他

- 各種まつり参加で禁煙カルタづくり（うまい棒のプレゼントあり）を行っている。また今年7月から小学校へ禁煙図書を贈る活動を開始した。会費と寄付だけでは十分な活動ができないが、今年初めてきよせの環境・川まつりで禁煙図書を贈る募金箱を設置した。できる範囲で地道に活動していきたいと思っている。
- 観光資源の協力者
- 子ども食堂は食事提供だけでなく、子どもの居場所として、多世代が交流できる場である。地域の方が子ども達に関わってくれるような取り組みをしていきたい。

- 毎週の活動中心であり、地域への働きかけが難しい。

3. 地域との関わり

問6 普段行っている取り組みのほか、どんなことであれば地域貢献ができると思いますか。(いずれかに○ 複数回答可 カッコ内に内容をお願いします。)



1. 知識・技術を市民向けに伝える場づくり

- 代表の私自身が3回にわたり講座を開催し、1回目、2回目は定員を超える応募があった。我々の活動の発端は市民の活動を応援することであったので、応援したい市民がいれば細々とでも応援をしていきたいと思う。
- 啓蒙活動、理解を深めて欲しい
- 川の清掃作業

2. 活動体験の場づくり

- 絵手紙体験教室を開く
- 句会、篆刻（てんこく）教室
- きよせ映画サロンへの参加、来場者との交流

3. 他の団体で困っていることがあれば協力したい

- 当団体の得意な分野の要求であれば

4. 地域の困りごと解決のために関わりたい

- 団体、ボランティア個人の自立意識（人、物、場所、資金など）。社協、自治体の可能な範囲での支援（物、場所、資金）。
- ペット問題の話し合いやイベントや講座は、地域課題としてボランティア・

市民活動センターで行われており、そこに当会のメンバーが協力させていただいているので継続していく。

5. 市内の企業・大学・社会福祉法人・自治会等との連携

- 現在、市内小学校の校庭の樹木の CO₂ 吸収量の測定を学校の協力で進めている活動への協力。
- 多文化共生・国際交流事業として、外国人（日本語教室学習者）による自國の文化の紹介などを行って、幅広い層の地域日本人との交流を促進したい。
- 清瀬の魅力発掘にご協力いただきたい。
- 子ども達に様々な体験や活動の場を提供していきたい。そのために地域の人や企業、大学等と連携していきたい。
- 社事大の学生との交流
- ふれあい祭へやきそばの出店として参加
- 講演・講座の開催

6. その他

- 支援対象の視覚障害者団体とは連携している。過去には、他団体の発表会での録音に協力したことがある。
- すでに出来ることを行っている
- 登録消費者団体連絡会への加入

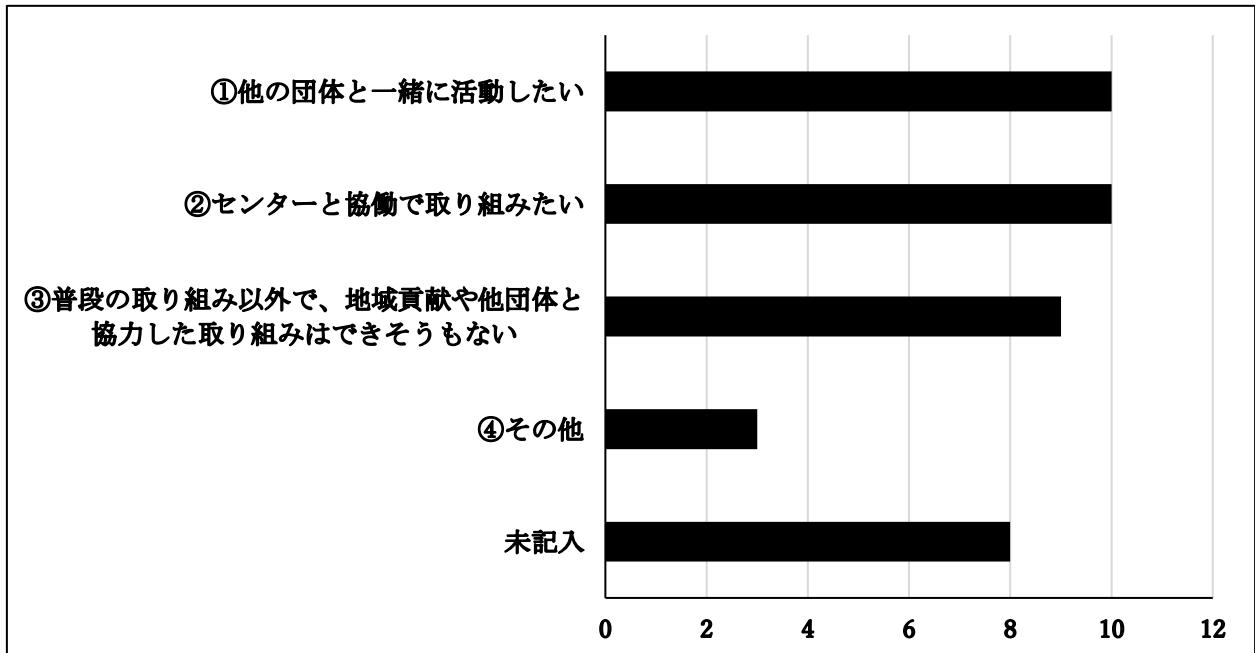
問7 過去1年間程度で、他の団体（活動団体、企業、商店、農家、学校、自治会など）と一緒に取り組みを行ったり、協力して実施した取り組みはありますか。あれば、取り組みの内容を教えてください。（自由記述）

- 盆踊りの踊り手の育成：ラジオ体操会（中里）。小学校への出前ラジオ体操（清小・6小）。小学校新任教諭を対象に正しいラジオ体操の講習会の実施
- 現在、三小、七小、清明小の校庭樹木の CO₂ 吸収量の測定と表示を行っており、他校での要望があれば協力する。
- 社会福祉法人とボランティア養成講座開催
- 清瀬第七小学校の円卓会議（松山 DX）にはなるべく参加するようにしている。毎年学校のまつりには「市民の健康を守る会」として参加し、展示や禁煙カルタづくりを行っている。今年はきよせの環境・川まつりにも「市民の健康を守る会」として参加した。
- 小学校で点字授業及び夏のボランティア体験で点字教室。
- 清瀬市総合防災訓練に参加し、多言語防災パンフレットなどを紹介した。日本語ボランティア養成講座と学習会を、担当部署の生涯学習課と連携して市と共に催で行った。松山地域市民センター主催の「未来カレッジ」に協

力し、日本語教室学習者 3 名を派遣し、小中学生が外国の文化にふれる手伝いを行った。

- 清瀬視覚障害者グループあかりのメンバーからの音源を、定期的刊行 CD に組み込む。清瀬社協の刊行物の音訳。ボラ活だよりは、定期刊行 CD に入れる (CD・封筒は会の負担)。社協だよりは、CD と封筒は社協負担。
- 市外企業 (沿線まるごと株式会社) と地域活性化についてのイベント開催
- 清瀬市から、高齢者元気回復事業「ひまわり元気塾」を受託。
- ボランティア・市民活動センターで開催されたイベント(人とペットの幸せフェア)への協力。そこで他団体やボランティアさんたちと協力することができた。飼い主の死去で残された猫の保護の協力の際は、ボランティア・市民活動センターから預かりボランティアを紹介してもらい、その後、フェアで譲渡に繋げることができた。
- 子ども食堂を全国的にサポートする団体【むすびえ】からの紹介で、企業の子ども食堂応援プログラムに応募して、企業と連携した。
- 音訳講習に参加、説明。
- 小学校、保育園の授業に協力。川の清掃やゴミが環境に与える影響について生物の採集による生態系や多様性を知る。水質調査による川の環境を知る。自然川づくりと工事内容について、都の管理事務所と話し合っている。
- 是非民生委員の方に協力を得て食事を作るのに困難な人又一歩、家から出向く等に役立てていただいたら、この活動の意味が一層深まると思いますので民生委員の方にはお願ひしたいと思う。
- 「きよせコミュニティカレッジ」への参加。夏の体験ボランティアへの参加。小学校での福祉教育への参加。
- 登録消費者団体連絡会としての活動
- 「東京の明日を創る協会」において、生活会議競技協議会の活動。
「たま市民活動ネットワーク」において、5 市団体と活動内容の交流 (小平市、西東京市、東村山市、東久留米市、清瀬市)
清瀬郷土博物館より講師を招き、清瀬駅 100 周年の講演会を開催 (2024.7.14)
- 東京都下水道局、清瀬水道処理センターの見学 (2024.10.11)
- 社会福祉協議会が募集して子ども達にマジックを教え、幼稚園の子ども達に披露する。

問8 他の団体（活動団体、企業、商店、農家、学校、自治会など）と一緒に活動や協力を得ていきたいことはありますか。（いずれかに○ 複数回答可 具体的な協力内容等の考えがあれば、カッコ内に内容をお願いします。）



1. 他の団体と一緒に活動したい

- 小学校で喫煙防止の教育を行いたい。これまで清瀬第六小学校と清瀬第七小学校で一度ずつ喫煙防止教室を、市役所・学校・当会の3者の共催で実施した。もっと他の学校とも一緒にに行いたいと思っている。
- 外国の文化（習慣や料理など）の紹介や外国人との交流を希望する企画があれば、可能な範囲で協力したい。
- 視覚障害者団体との連携
- 農家の方のご協力で、子ども達に、作物の収穫体験
- 学校と川を使った環境教育・安全教育

2. センターと協働で取り組みたい

- 現在実施している「夏のボランティア活動」への協力
- ボランティア養成
- 企業や商店の子ども食堂応援プログラムなどあれば連携したい。
- 川の環境保全に関わる活動全般、人員確保

3. 普段の取り組み以外で、地域貢献や他団体と協力した取り組みはできそうもない

- 会員の減少などから活動が下火になっているため、何か打開策はないかと思っている。
- 自分達の生活を大切にしつつ、無理のない範囲で活動を続けたい。

4.その他

- 「夏のボランティア活動」を学校だけでなく、地域の公園緑地等での CO₂ 測定に協力可能
- 具体的イベントで、可能な範囲で他団体等との相互協力。

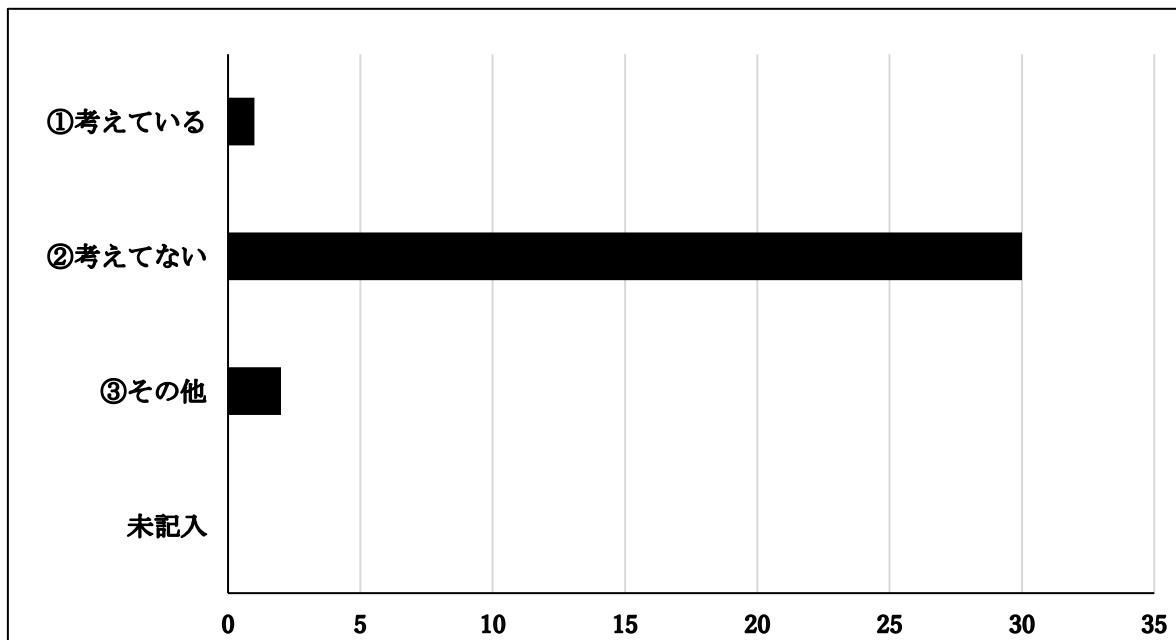
問9 若い世代へ自団体の活動をアピールするためには、何が必要であると感じていますか。（自由記述）

- 樹木の CO₂ 吸収量の測定の活動は、地球温暖化防止への縁（二樹木）の大切さを可視化する目的で実施しており、当団体に賛同する団体、他人の協力、参加を求めている。
- SNS など活用した広報。
- 今年度、清瀬市内9つの小学校に禁煙図書を贈るので、そのことを保護者の方にも知っていただき、土曜日に図書室を開放している小学校では保護者に直接禁煙図書を手に取っていただきたい。
- 若い世代の方が仕事を休んでまでも活動したい魅力のある物を考える
- 地域活動が社会参加の一歩であった時代と異なり、単発的な活動であったり、既にもっている特技を生かす活動ではないため難しい。
- 若い世代が思わず「参加してみたい」と感じるような、ワクワクする場づくり。

年齢層の高い団体であっても、若い世代が不安なく踏み出せる受け入れ体制の整備。誰もが心地よく関われる環境づくり。

- ボランティアの意義の理解と重要性
- 社会貢献、社会的課題・問題の解決ができる範囲でやるのみ。
- 紹介する場所の確保。活動参加への案内
- 市政が中心となり、街の活動化の一環として【清瀬市地域交流会の開催（団体任せにしない）】

問10 貴団体のNPO法人格の取得を考えていますか。(いずれかに○ カッコ内に内容をお願いします。)



1. 考えている

- 子ども食堂だけでなく、子どもが安心して多世代と交流し、楽しめる居場所を作りていきたいと考えている。しかし法人格は未知の領域なので、講習会や法人との連携など、教えていただける場があると助かる。

2. 考えていない

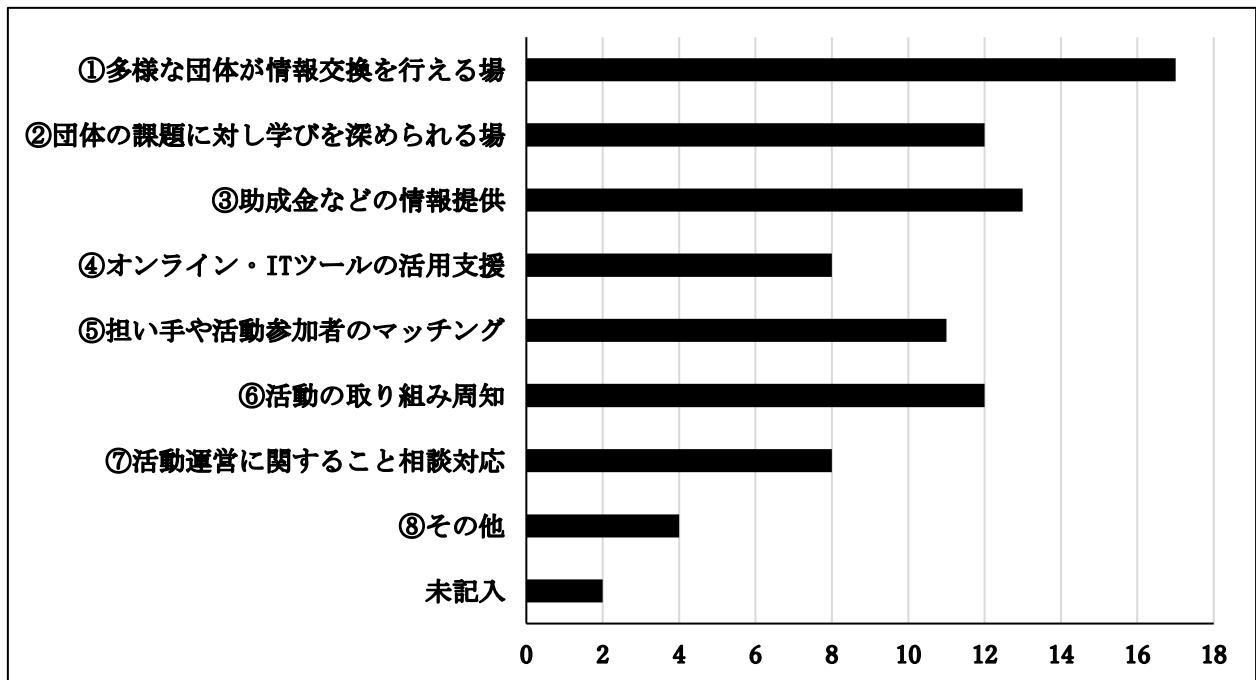
- 現在、一般社団法人で活動中
- 少人数のグループなので考えられない
- 作業を増やせない

3. その他

- 未定
- 組織に入っているので必要ない

4. ボランティ・市民活動センターについて

問11 きよせボランティア・市民活動センターの取り組みとして、さらに期待したいことはありますか。(いずれかに○ 複数回答可 具体的考え方があればカッコ内にお願いします。)



1. 多様な団体が情報交換を行える場
 - 社会事業大学のボランティアセンターとの関係を強化して、ボランティアに関心がある学生との地域交流を進めてほしい
 - 専用のボランティアセンター
2. 団体の課題に対し学びを深められる場
※コメント無し
3. 助成金など情報提供
※コメント無し
4. オンライン・ITツールの活用支援
 - IT系に詳しくないので、教えてもらえたならありがたい。
5. 担い手や活動参加者のマッチング
※コメント無し
6. 活動の取り組み周知
 - ボランティアフェスなど楽しい取り組み
 - 活動形態の多様化はいいと思うが、社協として一本化すべき。きよせボランティア・市民活動センターが一人歩きしているように感じる。社協の主体性をもっと発揮すべき。

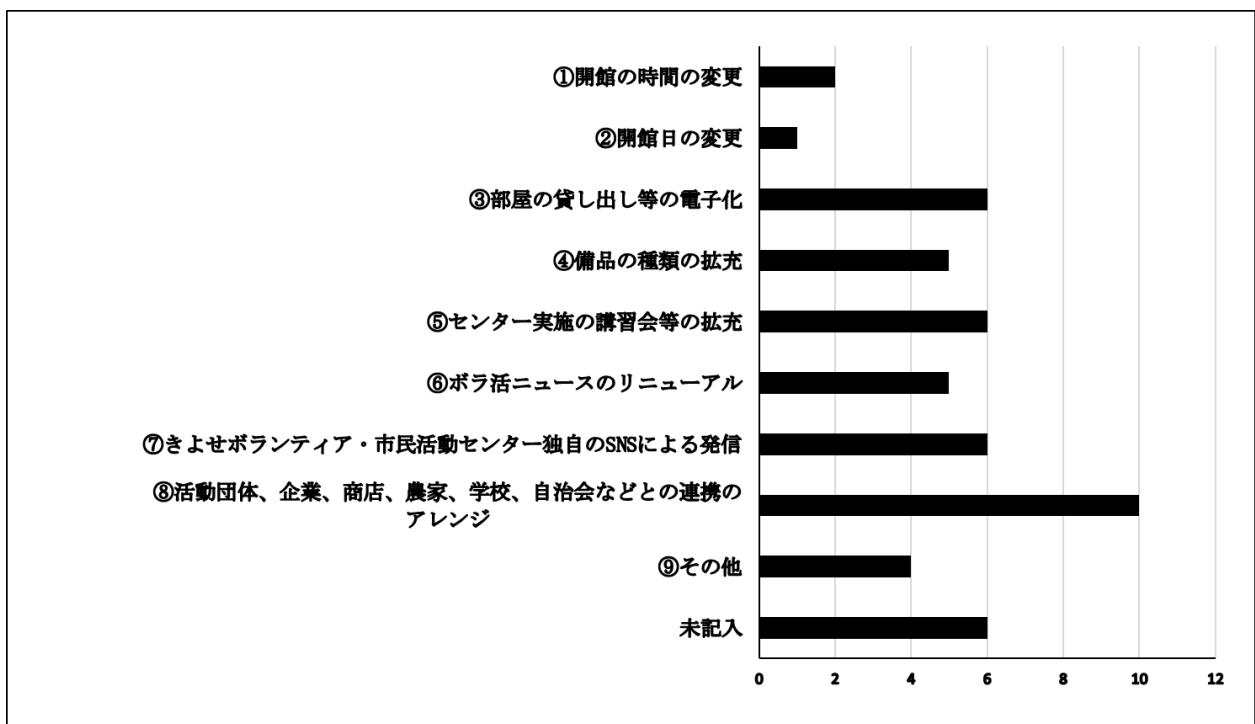
7. 活動運営に関する相談対応

※コメント無し

8. その他

- 活動拠点、連絡センターとしての役割
- きよせボランティア・市民活動センターの講演会（傾聴の講演会、良かつたです）

問12 きよせボランティア・市民活動センターの運営に関して、よりよく運営するために期待することありますか。（いずれかに○ 複数回答可 力ツコ内に内容をお願いします。）



1. 開館の時間の変更

- 若い世代の活動の場として夜間開館
- 2. 開館日の変更
- 日曜日も開館
- 3. 部屋の貸し出し等の電子化
- TVAC（東京ボランティ・市民活動センター）の様に貸出可能な施設情報が確認できる
- 4. 備品の種類の拡充
- 連絡及び活動拠点、備品、資料の倉庫など
- 5. センター実施の講習会等の拡充

※コメント無し

6. ボラ活ニュースのリニューアル

- 活動団体の事業の紹介

7. きよせボランティア・市民活動センター独自のSNSによる発信

※コメント無し

8. 活動団体、企業、商店、農家、学校、自治会などとの連携のアレンジ

- 各団体の活動に参加するなどアウトリーチの取り組みとニーズ把握
- 市内の企業、商店、農家、子ども食堂以外の活動団体等との連携がまだないでの、連携させてもらいたい。

9. その他

- Wi-Fi の導入
- ボランティア団体の活動拠点である現在の活動センターの利用内容を継続してほしい。

問13 平成30年度から清瀬市社会福祉協議会がボランティアセンターと市民活動センターを運営していますが、どのように感じているなど、ご意見・ご感想をご記入してください。(自由記述)

- ボランティアと市民活動の区分けがあいまい。公共性のある活動へ資源の配分をお願いしたい。
- スタッフの皆さんには、市民への対応もよく一生懸命やっていると思う。
- ボランティアセンターと市民活動センターの役割の違いを認識していなかったので、社協が異なる二つを担っているという意識はあまりなかった。スタッフの対応も親切で、活動の縁の下の力持ちとして大いに助かっている。
- コロナ禍のZOOM活用支援は助かった。
- どちらも市民に対するPRが少ない
- 平素の市民活動、ボランティア活動への支援に深く感謝申し上げる。今まで清瀬市からの報告資料等は一読しましたが、会議には全く参加していない。清瀬市で高齢者支援の活動をしている立場で、感想・意見を述べます。アンケート内容を見ると、「ボランティアセンターと市民活動センター登録団体」だけの問題ではないように思います。清瀬市の市民活動・ボランティア全般・根本的な問題・課題であると思う。清瀬社協の活動そのものの問題、課題であるように思う。したがって、施設閉鎖問題と今後の将来的な活動は切り分け、早期に決断・解決し、本来活動を継続・発展させるべきと考えます。

1. 名称・呼称について。「ボランティアセンター、市民活動センター」何

故二つなのか。いろいろ経過はあるようだが、団体側、運営側の問題であり、市民からすればわかりにくい。清瀬社協「ボランティアセンター」で良いと思う。

2. 清瀬市の関わりについて。清瀬社協の活動の一部である、きよせボランティア・市民活動センターの活動に、清瀬市がこれだけ丁寧に踏み込んで対応しているのはすごいことではないかと思う。半面、施設閉鎖問題があるとはいえる「何故、一課題に対しここまで市がやらなければいけないのか」という疑問もある。まだ施設閉鎖問題が解決していないのが驚きである。社会貢献・市民活動・ボランティア活動の分野は広い。清瀬市、清瀬社協は一つの課題に踏みとどまるのではなく、高齢化、少子化、障がい者、環境、趣味・・・等の全体を見て、具体的な課題解決へ向けた支援・協力をすべきであると思う。

3. 清瀬社協の関わりについて。施設管理は清瀬市とは言え、社協の動き・考えが全く見えない。根本的には、「ほとんどは清瀬社協の問題・課題」「清瀬社協は何やっているの」と言いたい。社協がもっと前へ出ていいのでは。

施設管理に係る課題 → 清瀬市

市民活動・ボランティア活動に係る課題 → 社協

4. 市民団体、ボランティア団体の関わりについて。当事者の関係団体も他力本願でなく、自立を基本にすべきだと思う。「何のために、誰のために活動を行うのか」をもう一度考え方すべきではないかと思う。ボランティア活動は自らの主体性の問題であると思う。必要と思うことを自らやれることをやるというのが基本だと思う。趣旨に賛同する人が集まる具体的活動を行う。自治体等はあくまでも、相談、協力、支援を可能な範囲でやってもらう事ではないだろうと思う。

5. 活動場所について。「活動はやろうと思えばどこでもできる」と思う。活動場所がなくなるわけではない。新たな場所での活動方針・計画を早期に作り活動を開始・継続すべきと思う。チョット遠いが、駐車場、連暖房、エレベーターなどが完備されて、「市民活動・ボランティア活動の拠点」を一つの目的とした「清瀬市コミュニティプラザ」を中心に活動したらよいと思う。部屋も工夫すればまだあると思う。駅に近いアミュー等に活動場所も一定程度確保するようなので、「長期にわたり、いわゆる器（施設・場所）にこだわり議論を続けるのは市民活動・ボランティア活動に時間的なロス」ではないかと思う。私たち「一般社団法人きよせ 100 歳時代」（前身のNPO法人「友遊」）は、15 年前に元町のNTTビルから、現在の清瀬市コミュニティプラザに活動拠点を全面移転した。当時は利用者会員・ボランティア等、年間 26,000 人が利用した。

結論的には、施設問題とボランティア・市民活動の有り方を切り離し、早期の決断・合意・解決を行い、本来活動を継続すべきである。ボランティア・市民活動のあり方は継続的な・永遠的な課題であると思う。

- 今の運営に満足している。地域のニーズを把握し、福祉に精通した社協による運営は最適だと思う。平成30年の社協との統合以降、地域にさらに開かれたセンターづくりという目的に合った運営になっていると感じる。地域や福祉を大切にする職員の姿勢がこちらにも伝わってくる。ボランティアや市民活動に関する知識や地域における情報が豊富で、市職員より柔軟で相談しやすい。新たなニーズに対する当会の活動にも理解があり、課題解決のために一緒に動いてくれるので頼りになる。
当会会員の話では、市外の方から「清瀬は社協と市民ボランティアが連携して動いていてすごい」と言われたことがある。
- いつも親切に対応していただき、感謝している。助成金のご案内もいただき、助かっている。中古の不用品の食器等の配布もありがたい。ハロウィン祭りでは、竹丘地域を回って取材してくださり、感謝している。ボランティアを募集するイベントを開催してくださり、ボランティアを募集でき、とてもありがたい。
- 活動内容を周知し助かっている。
- 市民活動センターの利用に関し、安定的、計画的に利用できるよう事を進めていただき感謝している。また、他団体の取り組み、行事についても周知されているため会員に伝えることができている。ボランティアを行っている会員にとってはボランティアセンターと同居は利便性がとても良いと思う。
- 活動センターを無料で使わせて頂けるのは定期的に会議等を開けて活動がしやすく必要な場所と思う。
- 清瀬市社会福祉協議会の運営以前と変わらず、自団体の相談窓口として運営へのアドバイスを頂き、活動先もコロナ以前と同数の拡大と新たに小学校の学童や小学校のPTAのライブラリーカフェ等にも出向いている。新たな交流に会員の協力の中で推進できている。
- 活動しやすく、市の職員より話しやすい。他のセンターと休みが違うのでありがたい。
- 平成30年以前から壊れている箇所（男子トイレのドア）が未だ修理されていない。
- 大変、熱心に事業運営していることには感謝している。又、もう少し将来的、多様性の展望に立っての運営を期待する。
- いつも気持ちよく施設を利用させていただいている。1回目の移転説明会

では市の担当の方が施設利用団体の活動状況を把握しておらず「運営は社協に丸投げ」という印象であった。今回の移転を強行したら活動終了する団体もあったと思う。施設は活動にとても重要。

問14 ボランティア・市民活動の取り組みや、期待することについて、ご記入ください。(自由記述)

- 従来の活動拠点、連絡調整、及び会議室、印刷機等の利用、メールBOXの設置、人的配置を期待する。
- もっと専門性のあるコーディネーターを配置して、ボランティアの増加、活動の促進を期待したい。本アンケートを継続して行ってほしい。
- 現在のきよせボランティア・市民活動センターの存在の大きさを、閉鎖問題を契機に改めて知った。閉鎖計画を見直しして、同じ場所で活動が続けられる計画を市と市民が一緒になって考える方向に変更してほしい。新規建て替えが難しければ、耐震工事を含めたリフォーム計画にして、市民からの寄付やクラウドファンディングなどあらゆる財源確保を探って、市民活動の機運を積極的に醸成してほしい。
- ボランティアや市民活動に関心のない方でも、思わず足を運びたくなるような、魅力あふれる開かれた場となることを願っている。積極的な連携やマッチングの促進で、活動の活性化や新たな人材の発掘、そして新しい活動の創出にもつながることを期待する。
- 私たちは、飼い主の事情で行き場を失ったペットの保護と新しい飼い主探しへの協力、また再発防止のためのイベントや啓発活動を行っている。動物だけでなく人権にも関わる問題として、ご理解とご協力をいただきたい。そして市民活動の拠点、ボランティア・市民活動センターは利便性(立地、駐輪駐車場など)においても欠かせない施設なので、今の場所での存続を強く希望する。

地域で孤立する人、法や行政の支援から漏れている人たちを支える活動が広がり、今後ますます盛んになる事を期待する。

若い世代の参加は難しいかもしれないがアプローチを続けていただきたい。行政はボランティアや市民活動の役割を尊重し、社協や地域市民センターなど地域福祉サービスへの財政を削減しないでほしい。

各団体とボランティアが担っている多様な役割（環境保全、国際交流、子育て支援、動物保護、文化芸術、介護予防、地域交流など）を市がすべて補うのは難しいと思う。市の施策によって市民活動が停滞すれば、結果的に市にとっても大きな課題になる。停滞ではなく活性化させる仕組みを、今の活動センターを中心に考えてもらいたい。この検討会に期待する。

- 平日にボランティア交流会が開催されていたように思うが、平日仕事で参加できず、活動団体と繋がる機会がない。今年は、交流会に参加したいと思っている。働く世代は、平日は仕事だけど、休日にボランティアをしたい…という声もあり、土日にもボランティア相談会や交流会などを開催してもらいたい。ボランティアの世代がシルバー世代だけでなく、学生、若者、中高年と幅広い世代に広がることを祈っている。
- 市の職員数が削減され、業務が増え大変苦労されている事を、よく伺う。古い団体会員からは、市の職員が昔のように、川や雑木林の活動に参加されなくなつたと聞くことがある。
環境に関わる団体としては、市とボランティア団体が連携して清瀬の自然を守ることに当たらなければ成らないと考えている。連携を深めるためには、市の職員と交流を深める場所・ボランティア団体が活動しやすい場所、そのような環境を造る事が大切だと考える。
現在の場所は、市の中心地にありアクセスがしやすく、高齢化した会員には大変助かっている場所だ。
他にも、周年を通して無料で会議室が使え、資材を収納する小屋を置く場所がある。
当会としては、長期大規模工事として、現ボランティア・活動センターの建て替えを希望する。新しい施設は、現在の機能以外に、老人の集いの場・退職者が来やすい場所・物作りや修理ができる多目的ルーム・講演や発表など意見交換などができる交流の部屋・災害時に対応できる施設など多目的に利用できる施設にしてはどうか。
- 長期にわたって市民活動が続いて現在、高齢化が伴う問題が生じている。これは活動団体だけの問題だけでなく、清瀬市全体の問題である。各種市民活動が行政施策の先取り、補完の役を荷ってきていると思っている。市民活動・ボランティアに第一歩踏み出すことは一個人として勇気がいることだが、これを乗り越える後押しの工夫が行政として必要である。
安心して多くの市民活動団体が活発に活動できるためには、市の中心部にセンターがあること。利便性、一定のスペースが必要であること等を考えると現在地ボランティア・市民活動センターの存続は必要不可欠と強く思う。
- 清瀬市は市民ボランティア活動をどう思っているのか、市民側から伺いたい。
- 今度センターの施設変更にあっても従来通り活動できる環境であることを期待している。
- 清瀬市にとって必要な活動をしている団体には、市職員も積極的に参加し、

良い部分をご自分達の仕事に取り組んでほしい。

一例としては、手話講座に市職員も業務内で参加し、多少でも手話を使えるようになって欲しい。聞こえない人を相手に口話だけでの会話はあまりにも失礼。せめて筆談くらいは。

- 常時使える拠点を確保してほしい。今までの様に無料で利用出来る駐車場や駐輪場も備えて欲しい。清瀬市としてボランティアをする市民とボランティア・市民活動の重要さを認め、今までと同じ活動が出来る様に協力いただきたい。
- 男子トイレの和式をせめてウォシュレットにしてほしい。
- 市民本位の立場に立っての両センター運営に専念されることを期待する。
- 今回の移転問題は、ボランティア・市民活動について考える良い機会になった。今後は清瀬市がプランをしっかりしていただき、地域の交流・活性化や市民活動団体への支援に期待するとともに当会も意識を少しづつ変えていきたいと思う。

ボランティアを含む市民活動に関するアンケート集計結果

1 調査方法

- ・アンケート配布は以下の通り
 - 市民協働課窓口
 - 市内地域市民センター全館
 - 平和祈念フェスタ来場者
 - まちづくり委員会委員
 - 円卓会議参加者
 - ボランティア・市民活動センター職員
 - 事務局及び検討会委員による口コミ
 - インターンシップ学生 他
- ・回答方法はアンケート用紙を持参またはFAX、専用回答フォームのQRコードから回答のいずれか。

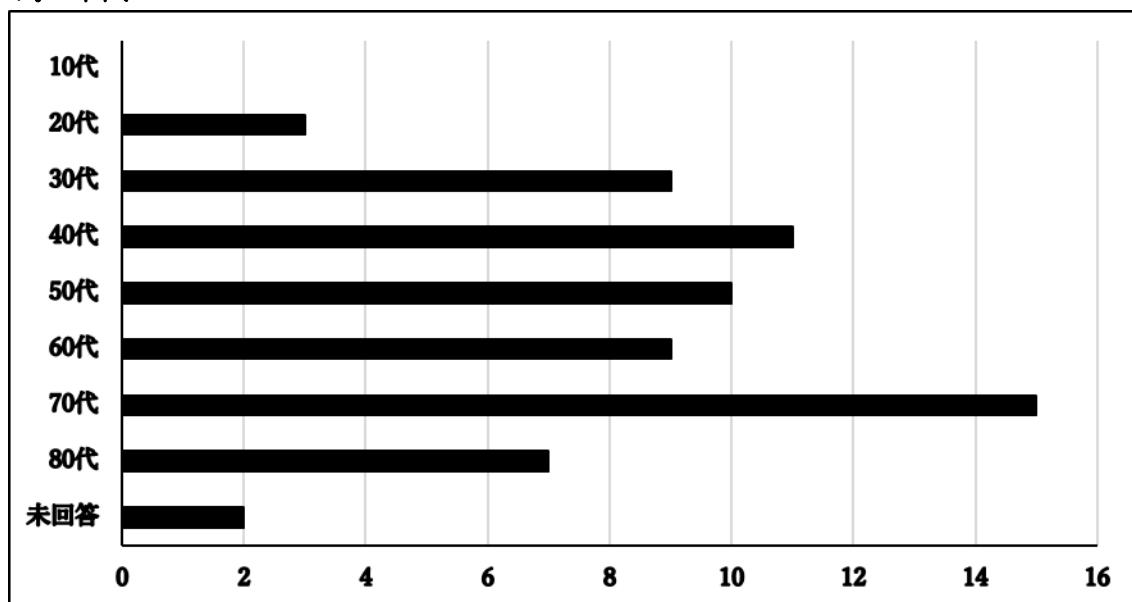
2 回答数

- ・66件

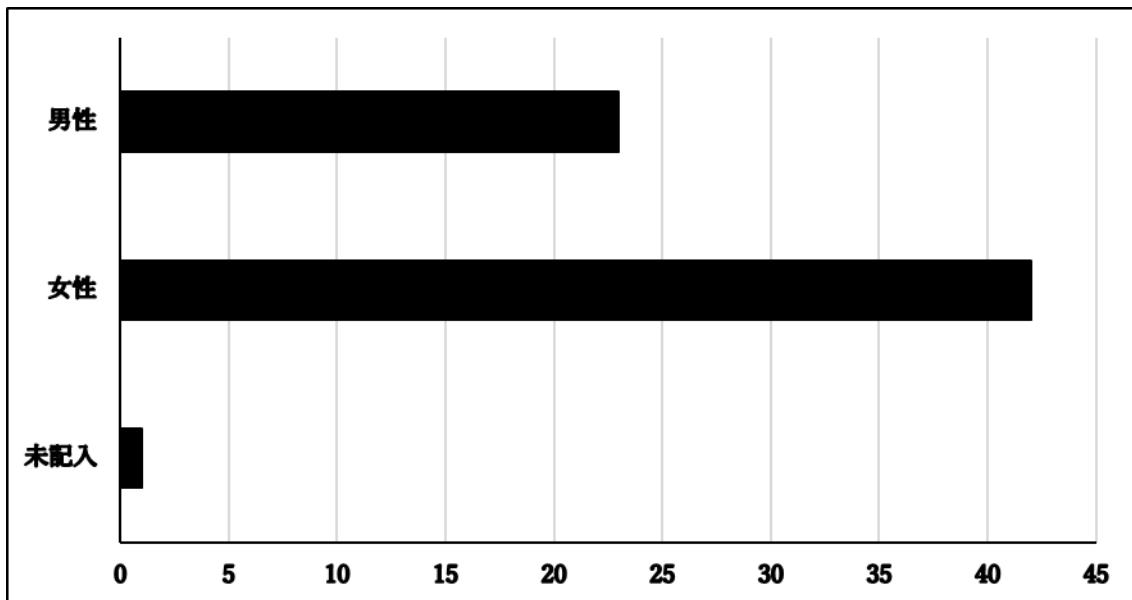
3 調査結果

【ご回答者について】

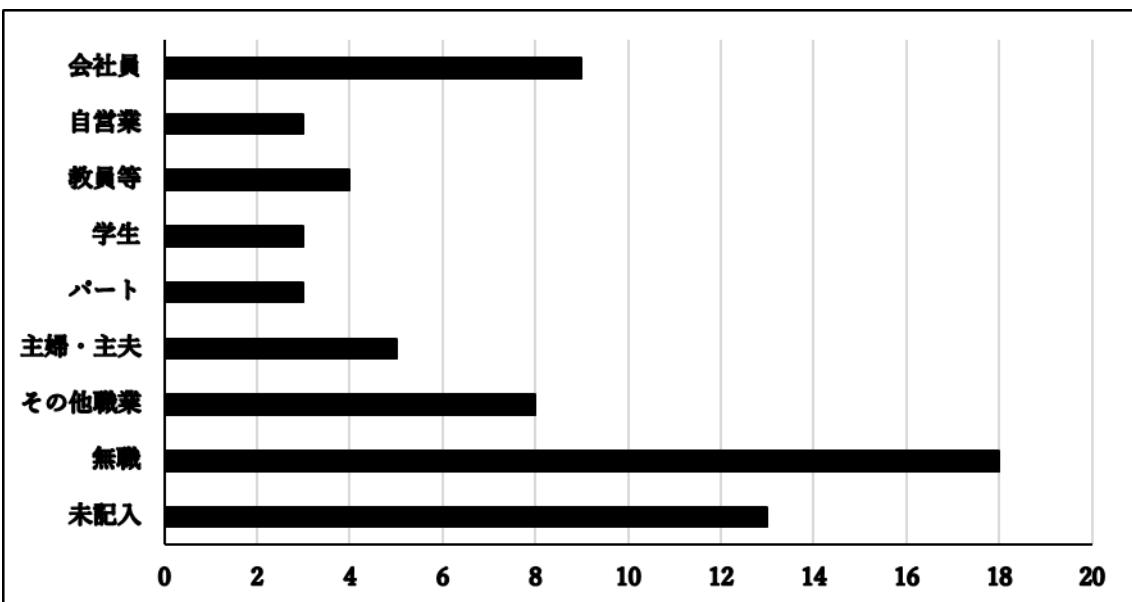
1. 年代



2. 性別



3. 職業または学校名

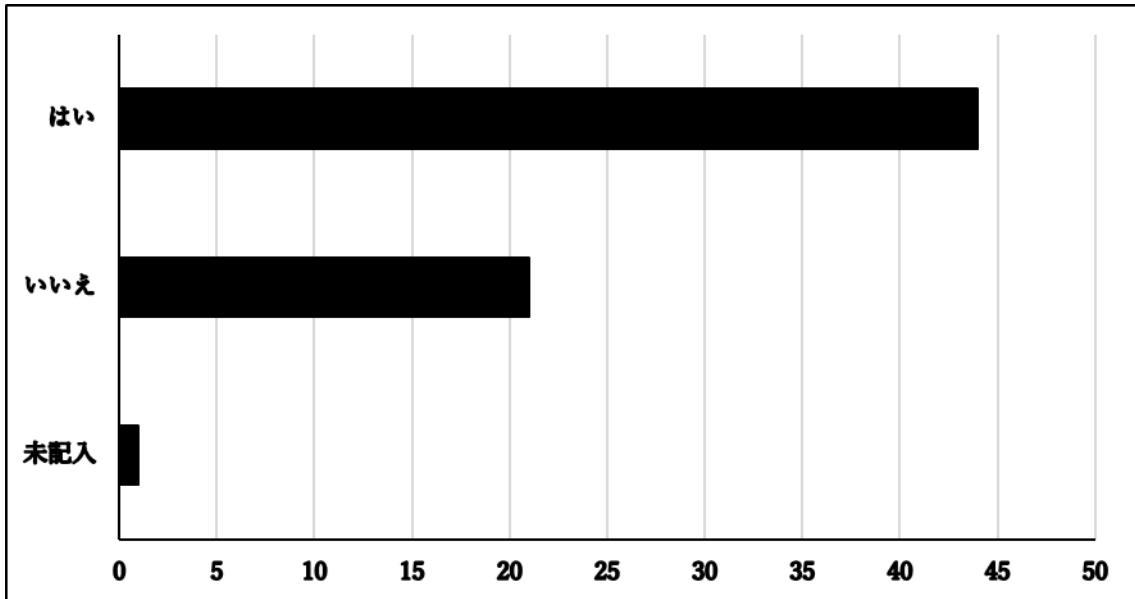


その他職業：日本語看護連盟、ころぼっくる、中間支援（3人）、

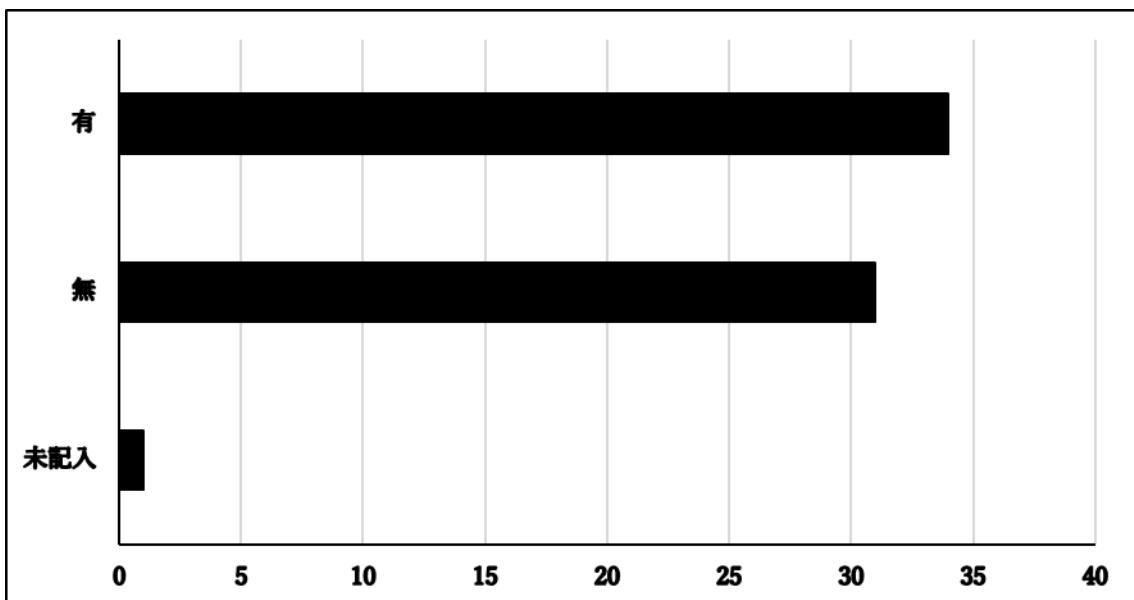
ガテン系職人、作業療法士、生活支援員

学校名：日本社会事業大学（2名）、日本社会事業大学大学院

4. きよせボランティア・市民活動センターを知っているか



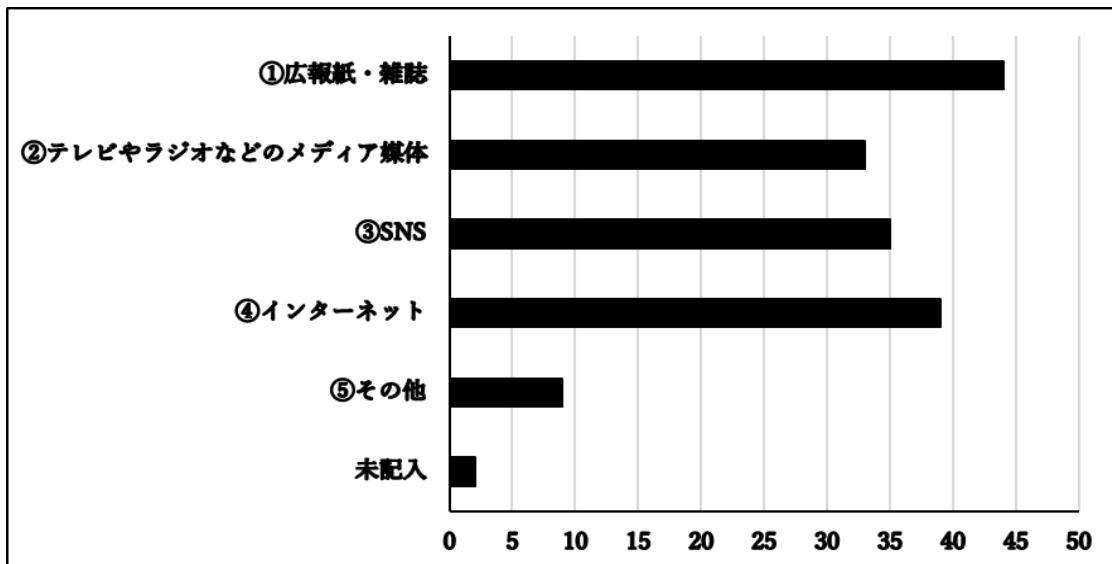
5. きよせボランティア・市民活動センター利用経験



問1．現在、お住まいの地域で担っている役割や取り組んでいる活動にはどのようなことがありますか。順番が回ってきてやむを得ずやるものや、自発的にやっていることのどちらでもかまいません。（例：自治会の役員、PTA、防犯パトロール、サロンの運営、趣味のサークル、講座等の講師、市道の落ち葉拾いなど）（自由記述）

- 民生児童委員としての活動
- ひまわりフェスティバル
- 防犯灯の見まわり、自治会の（町内）ゴミ回収
- 保育園の PTA の役員。清瀬中里地域コミュニティについて考える会（さつまいもクラブ）（花の里公園でのイベント開催）
- 趣味のサークルや小さな学習会、コンサート、映画会など自主的にやっているが、会場をとるのにとても苦労している。
- 自治会の役員、サークル
- ボランティア
- 生協組合員、健康づくり活動世話役など
- 野塩長生会役員、神社清掃
- 旭が丘で 10 の筋トレのお世話をしている。
- 自治会も何もないで、自主的にゴミ置き場の掃除をしている。
- 小、中学校（8 小、3 中）の通学路の景観維持
- 絵手紙サークルの講師、ラジオ体操
- きよせネクストに所属し、地域にお住まいの高齢者宅のゴミ出しボランティアに取り組んでいる。
- 父が会長をしているが、子どもが小さいため私達は何もできていない。
- 清瀬市消防団に 14 年間所属していた。今は平心講に所属し、お神輿を担いだりしている。
- まちづくり委員会、市のお祭りへの出店、きよせコミュニティカレッジの講師(2025 年 10 月～)、学校支援ボランティア

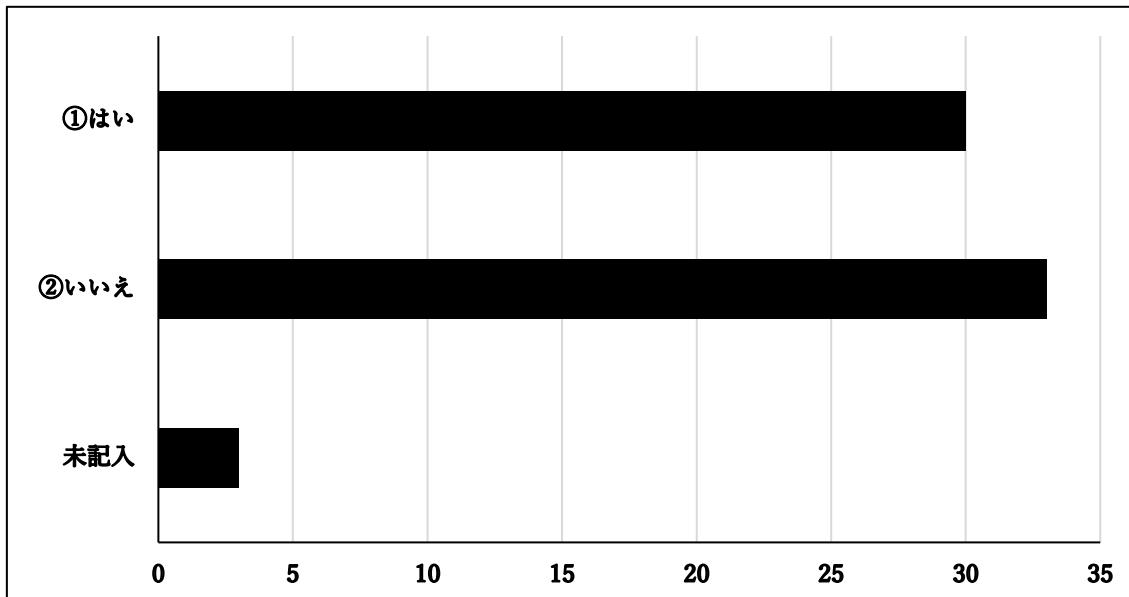
問2. 普段、暮らしや趣味について必要な情報をどこから入手していますか。
(複数回答可)



その他

- 住人の方や友人の口コミ（7件）
- チラシ
- 所属コミュニティ内での話

問3. 市内、市外の趣味のサークルやボランティアを含む市民活動団体に入
って活動していますか。



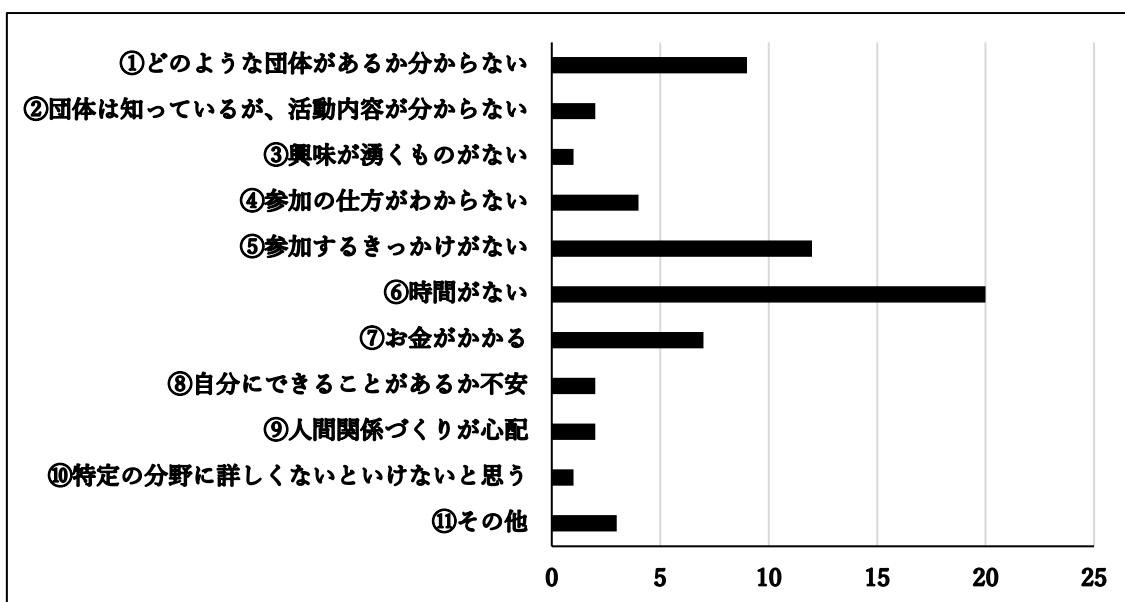
「①はい」と回答した方は、活動は市内・市外どちらか、どのような団体で、なぜその団体に入りましたか。（自由記述）

- 市外こども相談我が子が小学生のとき知り合いに案内されて興味を持ち続
けている
- 卓球（100歳時代）清瀬卓球連盟
- 川づくり清瀬の会、花の里公園のさつまいもクラブ（子どもと一緒に楽し
めると思ったので）
- 市内でも市外でも自主的な催し物を計画している。
- 市内福祉生協
- 市内、野塩長生会（老人会）、地域の方との交流
- 市内環境
- 「てことば」手話の学習活動
- 認知症サロン・老人ホーム等（3～4ヶ所）
- 団体ではないが、私的に動いている。
- コーラス
- 市内団体 たねまきびと清瀬の運営委員、自治会では10の筋トレ宮の台事
務局に勧誘された。
- 活動は市内。きよせネクストでは、信愛包括支援センターが主となり、地
域にお住まいの高齢者のお悩みにボランティアが対応している。（内容は、
物干し竿を買ってほしい、草むしりをしてほしいなど、行政には頼み
にくいようなちょっとしたご相談）大学の後輩が所属していて、私も清瀬

でボランティアを行いたいと考えていたため入った。

- 市内で平心講に所属し、お神輿を担いでいる。以前、消防団に所属していて、その時の仲間がたくさんいるから。
- 市内学校支援ボランティア。将来的に子供に関わっていきたい気持ちがあったため。
- 川の会、子ども食堂、太極拳、興味のある、自身の健康、必要にせまられたことがある。
- 市内で図書館関連。図書館、読書を盛り上げるため。
- 新婦人清瀬支部で平和の活動をしている。
- 市外で活動している。豊島区のホームレス支援団体。大学教員からのご紹介。

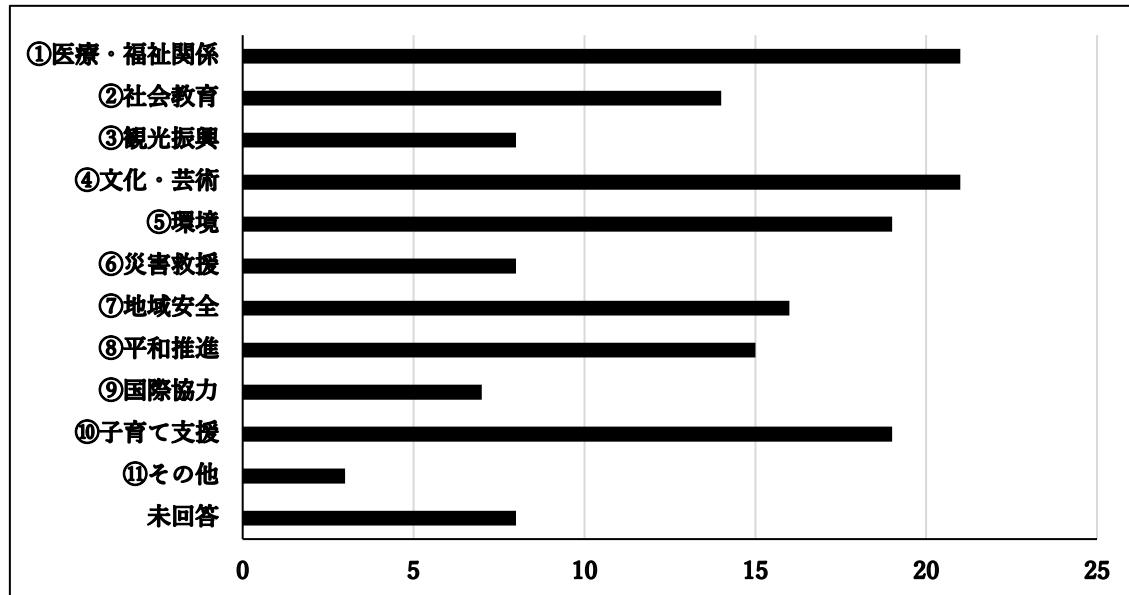
問4. 問3で「②いいえ」と回答した方にうかがいます。こうした活動に参加しない理由をお聞かせください。（複数回答可）



その他

- 団体には入っていない。単発ではボランティアをしている。
- 子どもの小さいうちは自身の事も後回しのため、身軽になってからかなと思っている。

問5. 友人や知り合いと地域のために活動するとなったら、どのような分野の活動をしたいと思いますか。既にされている方は、他ほかにどのような分野に興味がありますか。（複数回答可）



その他

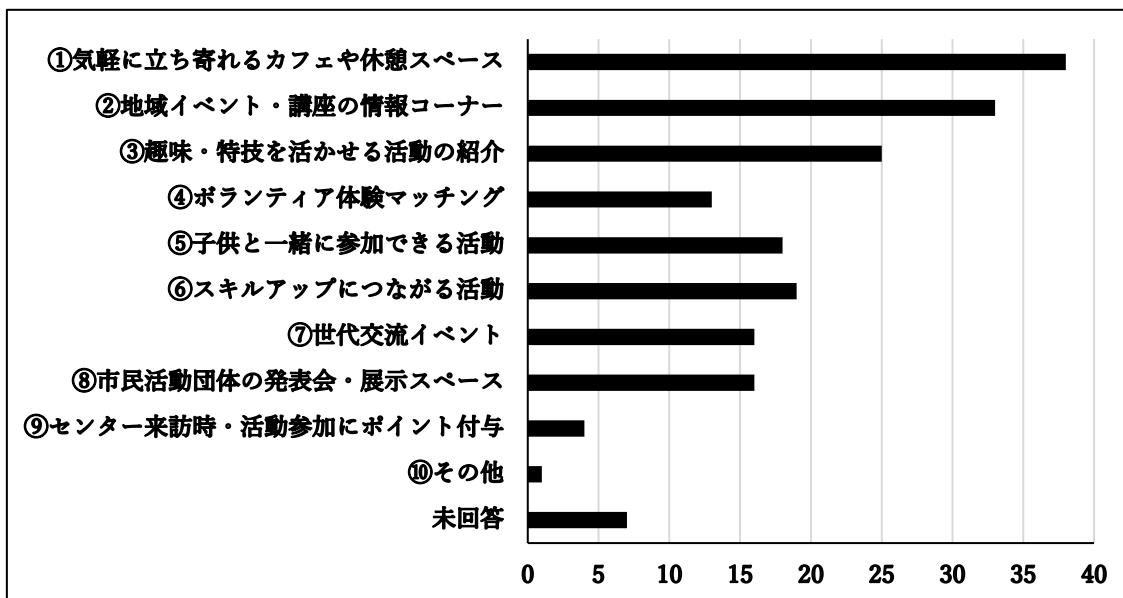
- 手話を活用した活動
- 植物、花の手入れ
- 動物

問6. ボランティアを含む市民活動に対して、関心をさらに高めるには何が必要ですか。（施設、情報、交流など、できるだけ具体的にお聞かせください）
(自由記述)

- 「できる人ができるることを」でなく、いったん関わると生活に影響が出るほどやらなきゃいけなくなる。
- 情報公開と情報発信。情報交流のプラットフォームが必要
- 自身の生活の安定がないと市民活動はできない。清瀬全体が豊かになって欲しい。
- 安全保障。高齢のボランティア参加者も多くなっている。各個人の保険保証ではなく、主催者の市、自治体で保障してほしい。
- 学校を通じての案内
- 活動センターの交流
- ボランティア団体が無料で利用できる施設
- お試しボランティア
- 活動拠点である施設は必要不可欠。活動する人材の確保も必要。

- 広報。また、どの地域からも通いやすく無料の駐車場や駐輪場があり、どの世代も活動ができる施設。
- 誰にでもアクセスしやすい場所。市民にとって偶発的な交流が発生するスペース。ボランティアや市民活動は、住民の自発的な活動が根幹であるため、それらをサポートできるセンター。
- 必要な情報が、必要とする人に届く機会が増えること。複数の媒体を利用し広報すること。
- 情報は足りないと思う。どの程度時間が必要なのか、などわからぬことも多いため最初の時点から今は無理かなと思う方多いと思う。
- 活動情報の認知度と地域復興に役立つ活動、目に見えてわかる施策の成果。
- 市報だけでなく、市の SNS やホームページでも更に活動内容などが多く掲載されれば目に付くのではないかと思う。実際に活動しているところもなかなか目にすることがない(もしくは気付かない)ので、まずは宣伝ではないかと思う。
- 情報が必要だと思う。ボランティアという言葉そのものがハードルが高く感じてしまう。
- 義務教育時代から参加する機会提供や目的について教育を行い、市民としての所属感を強める。その上で他者貢献、社会貢献に対するやりがいや幸福度の高さを感じていただければ幸い。
- 集まって話せる無料の場所、ボランティアするのにお金がかかるのは困る。こうしたいという思いを受け止める姿勢多様なボランティアができるという情報提供。そのための印刷機器の必要性。
- 活動情報、活動団体の紹介について市が積極的に広報すること。また、市民センターなどの公共施設を拡大し、利用料は下げる使いやすくすること。活動に必要な情報が得られるように Wi-Fi 環境が整備されている。
- 清瀬市内で「ボランティア」と聞いたら「きよせボランティア・市民活動センター」が第一想起されるくらいに認知されること。そのためには市民が必ず目にするような場所に名前と活動が定期的に掲載されること。興味関心が向くチャンネルで広報活動をすること、など。

問7. きよせボランティア・市民活動センターにあったら行きたいと思う機能やサービスはありますか。（複数回答可）



その他

- ポイント付与重要だと思う。
- 小中学生が放課後の時間に立ち寄り、宿題や雑談ができる空間（放課後の居場所）